

婦人の子ども

第八卷
第三號

フベール會發元

第八卷第三號目次

● 獨逸に於ける幼稚園	エム、ヴィ、オツシー
● 教育の力	吉田 熊次
● 美	笹岡 芳名
● 育児の經驗	光藤 泰次郎
● 保姆となりし最初の一週間某	樂 天 子
● 教育者の樂しみ	川口 孫次郎
● 紀念の牛塚	藤 五代 策
● 密柑の御料理	石井 泰次郎
● 此頃の料理	後藤 ちとせ
● 美ちゃんの幼稚園觀	
● 雜錄	
● 鳥の話	なにがし
● 機織り娘	硯 山 人

投稿募集

● 一般話 本誌半ヶ年分以上三ヶ年分
 一種類 選擇の上本誌に載録せるものは
 ● 一般記事 内規により原稿料を呈す

但し右賞品は受賞者の希望に依りて會費と差引き若しくは自ら取
 らずして其指定する人に本會より直接送ることを得
 一注意 お伽話及一般は記事一行廿二字詰にて半紙又は罫紙に書
 かれたし原稿は凡て返戻致しません此募集は期限を定めません毎
 月十日迄の分を其月に還許し後は翌月に回は何時迄も引續いて
 行く積りです。

宛名は本會へ直接御送り下さい。
 開き封で原稿原稿と標記すれば三十文迄は郵税二錢で参ります。

質問規定

本會は讀者の種々なる質問に應じます。婦人と子供と家庭とに關する
 事なら何でもお尋ね下さい。往復はがきか又は通信料封入ならば早速
 に御答します。公衆に有益だと思ふことは誌上で説明します。

入會又ハ購讀手續

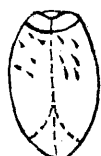
本會に御入會なさうとする方は會費一ヶ月金拾錢の割合で一ヶ年
 分をまとめて本會に直接御申込下されば直に登録して雜誌を發送致
 します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は左の割合の前金で本會
 か又は賣捌書店へ御便宜御申込下さい

- 一册郵税共金拾一錢
- 六册前金郵税共六拾錢
- 拾二册同金賣捌貳拾錢
- 郵券代用一割増

理料蟬



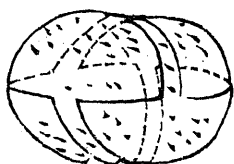
二



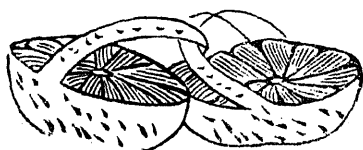
三



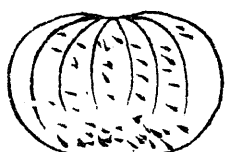
理料輪の慧智



二



理料花菊



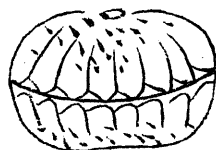
其の一

二



一

其の二



二



一

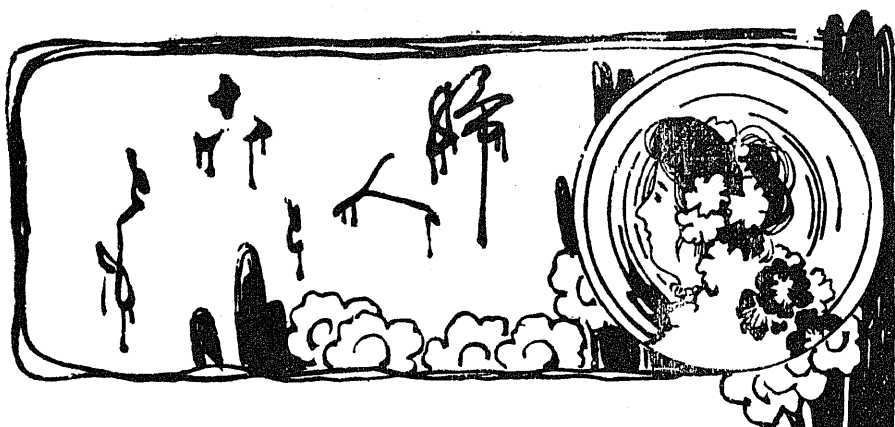


二



幼稚園料理

(照參理料の柑密)



第八卷第三號

香

十七字詩

鹽野奇零

めれ髪に霜なく垢離の 冥りかな
 春雨や 茶寮に暮るゝ 園基の音
 琴やみて 人去りにけり 月おぼる
 鯉はなつ 池のまはりや さし柳
 花鳥に 春おしうつる 二月かな
 武士の 門にやさしき 柳かな
 梅が香や 氣儘に暮らす 古稀の人
 雨二日 ぼく笑む山の 景色かな
 果てありて 果てなく見えぬ 野のかすみ
 盆栽の 松の根じめや 福壽草
 御書院を 明け放しけり 梅の花
 我立てば 人も見て居る 霞かな
 永き日や 鐘かぞへても
 切風や 松の 梢に 風ぐるま
 櫛入れる 産後の 髪や 蝶の 縁
 三千の 美女は なくとも 梅に 月
 切風や 草履片手に 飛んで行く
 遠足や 蝶舞ふ 野邊の 握り飯
 蝶舞ふや 折々 覗く 乳母車
 孝と 義を 樹にはかりて 蛭うり

獨逸に於ける幼稚園思想

米國 エム、ヴィ、オツシー、



幼稚園は其故郷なる日耳曼では却つて米國よりも盛んでないと云ふことは屢聞いたことであるが記者が昨夏の歐洲漫遊に於て觀察したる所に因ると是は偽りでは無い様であるそして獨逸の教育家は一般に幼稚園を以て公共教育の範圍内に置く可きものとは認めて居ない様である。何故獨逸が斯うであるかと云ふことは獨逸の學校事業の性質を觀察すると自ら氷解することが出来る。一體獨逸と云ふ國は記者の見たる歐洲中では一等の軍國であるから其學校には自然頗る軍事的的精神が反映して居る。従つて獨逸の様な嚴格な教授をして居る教室は恐らく世界中にはあるまいと思ふ。朝なども一体早くて亞米利加の子供がまだ寢

二

床の中にある頃に、もう獨逸では始めて居る。そして悉くではないが一部の兒童は夕刻迄も教授を續けて居る、某父兄が余に語つて云つた言葉に子供は學校に出掛けると同時に一瞬の自由も許されぬ。

と云つたことがあるが、是で以て獨逸の學校の様子が知れると云ふものです。そして彼等小供は學校に居ない時には家庭に於て種々の日課を課せられることになつて居る。少くも文法の稽古とか又は特殊の學校へ行かねばならぬ様にしてある。是は何故かと云ふに獨逸の若者と云ふものは生涯の最良な一部分を以て軍隊的生活を過さなければならぬ様になつて居るからして教育の全部を受けんとするには是非大忙ぎをしなければならぬからである。従つて彼等は物と云ふものは決して悠々と出来ぬものだと思ふて居る。他方には若し我々セコンダリースクール位の教科に稍適するものがあるとな一年間の軍役から除かれることになつて居る、是が獨逸の少年をして極力奮發せしむる非常な要因である。斯る感じは何處の學校でも感ぜら

る、ことで教師は又絶え間なく斯ふ云ふ風に生徒を勵まして居る、神經的でもイヂワルのでもなく頗る獎勵的に、又獨逸の學校では鈍と不仕合とに對して猶豫しないから時間の空費を見ることは出来ない。又快樂と云ふ様な側に時間を用ゐて居ることは全くない(遊戲にも、息をつく時もない位で)又獨逸では子供は黑板へ向つて悠々と歩むと云ふことはない、凡べて驅け足である。そして彼等の仕事は終ると云ふと瞬時に彼等の席に復する。伯林の子供は慰み時代と呼ばれた時代でも學校に居る間は決して遊ぶことをしない。飛びもしない、驅けもしないであとなく中庭の廻りを歩いて居る。伯林の學校と我米國のニューヨーク、ボストン、シカゴ等に於けるものとの此コントラストは著しい印象を我米人に與へて居る。伯林の學校教師は一般に兒童が自分自身で選んだ競技や遊戲で慰さむよりは系統的に組立てられた体操の中に其慰を見出す様にするのが訓練上必要なことだと考へて居る。

一隊軍隊的政治と云ふものは命令に服従すること、權力を尊敬すること、の上に成り立つて居るかは是が爲めに個性の發現と云ふものは極めて小なるか若しくは抹さつされてしまふ、從つて生徒は自分の意見を述べて見るとか或は自分の信ずる所を行ふて見ると云ふことが力弱くなり躊躇する様になるものである。絶えず斯う云ふ風に進んで行く結果は凡べての行が控へ目になるのは止むを得ないと云はねばならぬ。是が獨逸の諸學校に於ける著しい傾向である。斯様な處では幼稚園が盛んにならないのも無理はないと思ふ。何故と云ふに後の軍隊的訓練法に對して此幼稚園の教育法と云ふものは何う考へても餘りに柔らか過ぎて居り温和過ぎて居るからである。其上に以て來て幼稚園の教育法は個性の價値を餘り大にし過ぎる位に重んじて居る。且又幼稚園は兒童を鍛練し様とするよりは兒童を幸福ならしめ様と努めて居る。是が先づ第一に獨逸思想と衝突する所である。實に亞米利加の幼稚園を彼獨逸人に見せたら不思議に感ずるに違ひない。記者

も伯林で一二研究したが非常な違ひである。獨逸の教師は皆我亞米利加の幼稚園を以て兒童に對して餘り柔らか過ぎて、そして餘り感情的である。そして子供が自然、自負的になり威張ることを覺える結果は元來負ふ所の權力にも服従することが出来なくなると斯ふ思ふて居る。

議論は兎に角も實際我國の幼兒は獨逸の子供等に比して大に自由で且權力と云ふものに就ては然のみ注意をしないと云ふことは確かな事實である。

併し彼等は決して不遜でもなく不従順でもない。唯如何なる時機に敬意を表す可きかと云ふことに於て心得を與へられて居ないと云ふ丈である。蓋し獨逸の子供の周圍は敬意を表さなければならぬ人々で充ちて居るし我國の子供は皆此反對である」と云ふことが是等の原因でもあらう。

獨逸人の多くは吾等の行ふが如き幼稚園は單に我國少年の既有の欠點を更に劇しからしむるものであると考へて居る。

(湘南生譯)

●處女時代に満足を與ふるの害

處女時代には家政教育と技藝教育が第一で、裝飾は淡白清潔を保つて居れば澤山であるのに、日本處女の裝飾に至つては實に贅澤の限りを盡し、何一つ親の手助けをせぬ小娘に、身分不相應の帶を占させ、大した裝飾を頂かせ人中へ出して母親が得々と誇つて居る。小娘自身も追々増長して未だ指輪の宜いのが欲しい、時計も欲しいとあまえ出す。母親は自己を節し苦心慘愴して小娘に満足させ、賣物だから花を飾らねばならないと理屈を付けて居る、いやはや沙汰の限りちやありませんか。賣物に花を飾ると云ふのは男子の目を瞞かせるやうなもので斯様な賣物を買入れた男こそ災難、實家で贅澤癖が着いて居るから、亭主の仕向が萬端不満足でぶり／＼する、始末にいけない代物が多いのです。

西洋では處女に不満足を與へて置くのが、結婚後を愉快ならしむる元素であると致してあります。處女時代に衣服裝飾等を極質素に抑制されて居るから、結婚後良人が少しの物でも買つてくれれば非常に有難く嬉しく感じて大切に保存するので、西洋婦人の許へ參ると是は旅行中の良人が贈つた繪葉書ですなうてよく見せられる事があります、吾々が見ては詰らぬ些細の物迄さも大事さうに秘藏して居る所を見ますと、如何に満足しつゝあるかが分ります、日本の處女のやうに満足に結婚前に濟して丁ふ、他日良人から少しやそつとの物を貰つたつて親の半分に追付す、萬事親の有難味ばかりを思ひ出して、始終不愉快不満足に堪へない。こゝ等の原因が餘程夫婦の交情に關係を及ぼすやうであらうと思はれます。短い處女時代に不満足を堪へさせて、永遠に愉快に暮せると云ふ事を、世の親御達に宜しく慮つて貰ひたいのです。(文學世界)



教育の力

女高師教授
文學士 吉田 熊次

私の今日申し上げやうとする事柄は題として申上たならば教育の力といふ事であつていかにも抽象的の御話のようでありますが、教育といふものは、その高等と初等とを問はず漠とした理想が根に横はつて居ないと實の入つた教育は出来ないと思ふ。教育に關して効果をあげようとするには、教育者が興味を持つと同時に職務に對する信仰をもつてかゝらねばならぬ。單に教育上の技術のみを授けて効果あらしめやうと思つて居るのはまちがひだらうと思ふ。其の手段を運用する上の確信即ち、漠とした所謂空想に近い考へをもつてゐることが大教育家たるに必要なことである。百年以前の歐洲の社會では、教育の力を非常に大

なる者と思つてゐた、然るに現存の人は、精巧になつたから無暗に人を信じない、疑ひ深い、惡るくいへば懷疑的である。教育の効果はある點まではあつても、これに限りがあつて絶對の力があるといふ事は出来ないといふ論ずる。所が百年以前には今とちがつてをたつた。之れは教育史上明かなることである。例へば初等教育の開祖ともいふべきベスタロツチは何の爲めに教育にたづさはつたであらうか、教育に關する信仰が厚つたからである。ベスタロツチは人間の精神の力に關する信仰が非常に強かつた、適當に開發したならば、人の本性にはたしかに圓滿なる性が備つてをると確信してゐたのである。ベスタロツチは初めから感情的の人で最初は牧師にならうとし、次は法律家になつて身をたてやうとし、第三には農學家となつて細民を救はうと思つたのである。ビルといふ町の近くに大きな荒野を買つて、家を作りノイホーフと名づけたのである。然るに此れに失敗してしまつて僅かに數年の間に財産を失つた、是れから教育によつて哀れる人々を救ふとした、これが教育

に手をつけた初めである。チューリッヒ、ベルン、バ
ゼル等の市から凡そ四五十人の乞食の子を集め
て學校を開いた。そして半は仕事をさせ半は學問
させ自らも乞食同様の生活をして教育をしてゐ
た。元來この少年等は錢のない者のみだから、な
か／＼教育の効果が表れない、食物を能へると足
りないといつてぬすみ食ひをし、又衣服を與へれ
ばそのまゝ逼けて行く。かくして是れも數年にし
て失敗に終つたのである。それであるから今の
の考でするなら人の性質は悪い者であるとの結論
を得べき筈である。然るにペスタロツチはどこま
でも人の性は本來善いものといふ考へを變へな
い。彼はその後スタンツ、ブルグドルフ、ミュンヘン
ブッフゼー、エパドン等に於て幾多の困苦にわた
るにも拘らず教育の力の大きなりといふ事につい
ては少しも信仰を曲げない、終生教育に熱心した
は、一に教育の力に關する信仰の厚かつたからで
ある。

獨乙に於ける教育の發展もまた教育の力に關する
信仰が基であると思ふ。それは十九世紀の初めナ

ポレオンが獨乙に侵入しプロイセンは殆んど滅す
る迄にふみにぢられて一八〇七年のエーナーの戰
争後にはプロイセンの王はケーニヒベルヒにも居
る事が出来なくなつて露西亞の國境に都を移した
といふ困難に陥り、その講和條約の際には領土の
半をさいて辛じて獨立だけを許され過大なる償金
を出したのである。この苦しい中にたつて彼等は
再び國を盛んにせねばならぬと思つた。それには
教育によつて恢復するより外はないと考へたので
ある、ルイゼ皇后が宰相フォンスタインを呼びて
國運の恢復策を問はれた時にスタインはペスタ
ロツチの教育主義によりて恢復を計るがよいと答
へたのである。その結果としてプロイセンの教育
は俄かに盛んになつた、フイヒテもまた一八〇七
年から一八〇八年に渡る冬の間にベルリンに於
て十數回の講演をした、其の題は「獨逸國民に告
ぐ」といふのであつたが、その大意は獨逸が衰へ
たのは物質的の利害關係をのみ考へて互に共同し
て敵に當るといふ考へをせぬからである。我々は
精神力の開發をつとめ、精神力の力によつて理想的

に活動して行かねばならぬ。それをするのにはベ
スタロッチの教育主義によるより外はない、これに
依て心の力を開展させ以て獨乙の國運を挽回しな
ければならぬと是れによつてベスタロッチの教育
主義は他國よりも先に獨逸殊にプロイセンの教育
の上に植えつけられたのである。この精神は五十
年後に至り大に顯れ、遂に佛蘭西に恨みを報いる
ことが出来たのであると考へられる。
かくの如く十八世紀及び十九世紀の初めに於ける
人は教育の力の偉大なる事を信じて疑はなかつた
のである。フレーベル氏も一つの哲學思想か
ら教育をたてるようになったのである。フレーベ
ルの考へも人性に關する信仰があつて、安心して
教育に従事したのである。人の性質が善なるもの
力あるものならばそれは教育の力によつて開發し
て行かなければならぬ、當時の人はかく教育の力
を信じたが次第に世の中が變つて來た、十九世紀
に入つてから獨乙の物質的文化は次第に進歩して
來て再び人心が物質的にかたむいた。特に普佛戰
争以後には愈々實利實用的になつて來たからして

今日の獨乙人は十九世紀の初めとは非常に考へが
違つて來てゐる。教育に關してもむしろ其の力に
制限のあることを考へるようになって來たのであ
る。次に哲學者中にも同様の考へをもつて來た。
シーベンハウエルは人の性質は教育でもつてか
へようとするのはむだ事であるといつた、一宇宙
の本性人の本性は一種の盲目的の意志であるこ
のものは教育によつてかへる事は出来ないのであ
る生活の慾は人の本性であるから教育でかへや
うとするのはむだ事であると考へたのである。こ
の説の誤りである事は學者の間に於いて十分認め
られてをるのであるがシーベンハウエルは眞に
文章がうまいからして又その文章は平易でよく人
によまれるからして、またその厭世主義は物質を
欲する人には適してをるので、非常に廣つたので
ある。人の慾には限りがないが、之れを満足さす
る物は限りがある、その限りあるものをほしい
といふ限りなき慾は必ず不満足を生ずるのは定ま
つて居る。かくシーベンハウエルは能文を以つ
てふき込んだから人人一層教育の力といふ事を疑

うやうになつた。なほこの外教育の力に制限があると説いたのは第一ダーウインの進化論である。ダーウインによつて初められた進化論はなぜ教育の力を限るかといふと、進化論の主張する處は進化は一方に於ては外界の狀態に適する事に於いてなされるのである、又他の方に於ては人の性は遺傳によりて次の世に傳はるのである。この遺傳性は事情によりて進化はするがこれを人工をもつてかへる事は出来ぬのである、従て教育の力を限らるゝ事になるのである。次にプロッカーとロンブローニなどの唱へ出したる犯罪人類學もこの説を助けた。如何にして犯罪は行はるるか、これは教育によりてなほす事は出来るかといふにこれは遺傳性のものだから如何ともせん方ないとい説くのである。即ち犯罪の原因は先天的であるによつて教育は悪い人を善くし悪い事をさせないようにするといふことが出来ぬわけである。

十九世紀の初めに於てあれ程確な信仰をうけた教育はこゝに至つてのぞみ少いように考へられるようになった。これは誠に教育の爲めになげくべき

である。教育に効のないものとしたならば、教育に實の入れぬはその筈である。されど教育が事實に實の入れぬものなれば我等は事實をまげても教育の力を信仰する事は出来ぬ。併し私は教育の力は決して左程悲しむべきものでないと思ふ。アメリカにエレンケラーといふ女が居る。二才にて啞となり聾となり盲となり、七才までは殆んど何等の精神的交際を他となすことが出来なかつた。又その頃には性質も極めて悪く殆んど手のつけ様がなかつたのであるが、その後一人の教師を備ひ、僅かに觸覺をたよりに教育をしたのであるが、エレンケラーはその後大學に入學して英獨佛その他の國語に通じたといふのは人間の力は如何に強いものであるか教育の力はどんなに偉大なるかは驚くべきである。盲目にして且つ啞と聾との人が教師の力を通して觸覺のみで、學問上の修養をし古來の文學にまで通じたといふのは教育の力の如何に偉大なるかを證明するのである。この人は自分で順序傳を書き又樂天觀といふ小さな書物を書いてをる。世の中を少しも恨まず非常なる快樂でも

つて世の中を送つて居るのである。彼の女は云つて居るに私は偉大の希望を持て居る其希望は私の生命である、精神上で世の中を暮したら人には悲しみといふものはないとかいてをる。こゝに於て教育の力の大なる事を信するに十分の根據と思ふ。この事を頭にもつて教育に従事したならば一切の教育事業は生きて希望を新にすることが出来ると思ふかくてこそ保育の開祖たるフレーベルの心に叶ふ事が出来ると思ふ

○齒と唇の美

齒は口の美を添ふるに重大關係を有して居るから平生其手當に注意して齒の排列の悪しきものは齒醫者にかゝり少しにても齒痛みのあるものは砂糖を用ひし菓子などを多く食べぬ様に注意せねばならぬ又齒の排列整しからぬ時は音聲が此處より漏れて聞き苦しきものなれば成るべく眞珠を連ねたやうに綺麗にして置かねば可ぬ、それから口を閉ぢた時は上下唇の接合線は微しく曲つて「へ」の字なりになるが「へ」の字の如く彎曲せぬ範圍内にて結局「一」字形と「へ」の字形との中間に位するも

のを宜としてある又下唇は上唇よりは人目につき易けれど唇の美は上唇に多く存するもので鼻と唇との間が餘りに長いとか餘りに短いかは共に美を損するものなれど生れつきならば整方がない又齒が齦の外に現はるゝのは醜きものであるから楊子を使ふ時に氣を着けて齦を損せぬやうにするが肝心です或外國人は斯う言つて居る人の理想の齒は清水のうちにある眞白な小石のやうな清く美しくあらねばならんと其の眞白な小石の様な齒を造るには毎日良好な齒磨にて齒を磨くのが肝心である日本人は概ね朝一度しか齒を磨かぬやうであるが歐米の注意深き紳士や貴婦人は齒は生命の關門であると云ふ事を常に念頭に懸けて居るから非常に大切にして朝起ると磨く食事の度に磨く寢る時に磨く日々屹度五六度は磨くのである美人がニコリ笑ふ時眞白な美しい齒が見ゆるのは其容貌に一段の光彩を添える齒は顔の美から云うても又身體を健康にする點から見ても必ず大切に保護し大切に磨かねばならぬ殊に幼少の時から兩親が始終注意して日々二三度は是非磨く習慣をつけて置かねばならぬこれさへ實行すれば如何に齧齒の素質ある者でも屹度打勝つて立派な綺麗な眞珠の様な眞白なそして健全な齒を保つに至るべし(婦人衛生雜誌)

美！



東京醫科大學
皮膚科醫局

笹岡 芳名

美と申す範圍はなかく、廣い最も低級なる脚色
美もあれば最も崇高なる精神美もあります、それ
故に美と云ふ丈けを述べても一月や二月で盡さる
ものではありませぬ、此事は皆々方の御承知の通
りであります、私の今申しますのは、月の美、
花の美、衣服の美、毛髪の美即ち形容の美それに
精神の美的觀念が、如何に人目を喜ばしめ慰安を
與へ延いては一種の精神的療法ともなる様に思は
れますので、その事をお話致し度いのであります、
皆さんも御承知で有りませしやう故人となつた高山
樗牛博士は古今東西幾多の人が感に打たる、所の
蒼白き月の光り（月色美）を説いて極めて綿密に
世人に了解せしめた人で有りますが、美的觀念を
以て事物に接すればまだ、多くの見捨てられた
る美も存在するのであります、宮城野やよし野の

里に小さく咲ける葦の花が得も云はれぬゆかしき
美なる、共に枯野原の一すじ道にちらばる馬糞が
それも見様によりては美化せしめ得るものであり
ます、大徳が腰をかがめて嵯峨野に糞をひる處や、
上野、芝などの公園に茶屋女がまめやかに働いて
赤い腰巻が春風にちら／＼する處や、水晶も欺く
ような大きな風呂の湯壺の中に玉と砕けん眞裸體
の人が浴みするも電燈に透し見るなどは随分美し
い感じがするもので有ります、是は糞腰巻、裸體
の男などが一つ／＼に美なるものではありませぬ
が、時と場合によりまして美化し得るものの證據
であります、俗間にも物は見様に依ると申します
が誠に其通りであります、私は今少しく誰も知る
櫻の花に就いて古來一種の感に打たれて作つた詩
歌を申し上げませしやう
百人一首にも戴つてゐます通り伊勢大輔がはじめ
て宮中に上りました時に、さる者が櫻花一枝を献
じました、恰も帝のお側に附いて居つた藤原道
長が筆硯を與へて和歌を題せしめましたが御承知
の

いにしへの奈良の都の八重櫻今日九重に匂ひぬ
る哉

と、すら／＼書きました、その筆の痕は今も人口
に傳はつてゐる通りであります、又
源三位頼政が仁平三年四月襟裡に怪鳥（鶴）を射
て主上の御惱みを癒し参らせし事は誰も御存じの
通りでありますが此の人も亦和歌を能くしまし
た、その櫻を詠んだうちに、次の如きめで度さ歌
があります

近江路や眞野の濱邊に駒とめてひらの高嶺の花
を見る哉

又源將軍が智勇絶倫なる事は誰も知つての通り
であります、奥州に赴く時勿來關を過ぎ、偶々
櫻花の散りしきるを見て

吹く風を勿來關と思へども道もせに散る山櫻花
と詠みました、又薩摩守忠度が六彌太に首を取ら
れし時、旅宿の花といふ歌一首を簞に結ひつけて
ありました、その歌

ゆきくれて木の下蔭を宿とせば花や今宵の主な
るらめ

又遠江國熊野女が曾て都に召されて、大臣宗盛
に寵せられました時に

いかにせん都の春も惜しけれど馴れし吾妻の花
や散るらん

と感慨を歌ひました、此の他本居宣長翁が大和魂
を櫻花になぞらへて

敷島の大和心を人とはひ朝日に匂ふ山櫻花
とて幾萬年我帝國の有らん限りもてはやされる歌
であります、またこの他に詩人竹外の芳野の櫻花
を詠じて

古陵松柏吼三天。山寺尋春春寂寥。眉雪老僧
時停箸。落花深處說三南朝。

と歌ひました、芳野の詩が出ました序に今一つ私
の最も敬服して居る詩聖梁川星巖の芳野の花に對
する吟咏を御紹介申しましたやう

今來古住事茫茫。石鳥無聲杯二土荒。春人＝櫻
花＝滿山白。南朝天子御魂香。

以上の詩歌は僅かに今私の念頭に覺えてゐるも
のであります、古書などを渉獵つて見ますと數
へきれぬ程有ります、詩や歌は多少の修養がなけ

れば作れませぬが、作れぬまでも古人の云ひ残した詩歌を味ふ力や、月花に對してうつとり酒にでも酔ひし様な心地がするとまで觀得れば、あな勝ち作れぬとも良いので有ります、それ故に是非多少の修養を積むのが自分の一の樂みでもあり、遂に作り得るに至れば武きもの、夫の心をも和げ得るものであります、何と高尚なる美では有りませんか、女性の詩人としては先きに述べました星巖の室が紅蘭女史と云ふて有名であります、歌を能くする人は現在にも與謝野晶子、久保より江女史の如きがあります、

話が代はります、が衣服なども新柄と流行するようでは有り升が、いかにも其通りで物には變化が無くては直ちに飽くもので有ります、庭の小さき池も鉢の水も久しく換へませぬと泥むで有りますやう、時代で申すならば徳川が三百年の太平も餘りに久しかりしとは云へ、遂に光明ある維新に大變化したでは有りませんか、此變化の賜で有る今日の世の中は四十一年前には、夢にも思はれなだだろうと思ひます、私は何物に依らず變化が無

ければ物が進まぬので常に變化が無くては駄目だと考へます、衣服の新柄と申すのも全く此の例に洩れませぬ、依て出来るだけ品良き柄を作り衛生的に織り成されたもので、男女考効に適ふ所の目覺しきものは作製して欲しいと考へます、徒らに變形男子の如く女子の服裝を改良するのは、熟考すべき問題で、元祿、平安朝などの衣裳が今日世人の推奨する衣服で有ると共に我國固有の古雅艷容なる園粹は保存すべきが至當であらうと思ふ

毛髪、形容の美も頗る人目を喜ばしむるもので有ります、黄金色を欺くが如き金髪、滴らんが如き黒髪、文金烏田、何れ劣らぬ美麗なるもので有ります、衛生學上より見ても常に毛髪を梳り、時々沐浴して身體の垢を落とすなどは嬉しきもの、一で有ります、我々皮膚病學を修むる者は、とりわけ皮膚の血色、光澤などを美麗にし、身體の何れにも存する汗線の分泌障害なきやう、さては發疹物の出來ないやうにと計らなければなりません、彼の色素性乾皮症(俗にぞばかす)が遂には腫物の最も惡性で有る所の癌腫の肉腫を誘發するなどに思ひ

至らば、徒らに性も知れないおしろいなどを壁の如く塗つて美貌を計り、又猥りに油類を塗布して頭髮の光澤を計るよりも、人生天然の皮膚の美を計り毛髪之美を計るといふのが生理的に本能を全うする道であらうと思ひます、玉川の水に晒らせし雪の肌といふのも出来ない事では無いので有ります

斯様に大略を述べて見ますと、餘程贅澤で餘裕の有る者でなければ出来ぬといふ感があるかも知れませんぬが、決してそうではない、此婦人衛生會々員諸姉が中流以上の歴々の御方々で有れば是敷の事は何でもない、いや却て日常に實行されて居る事だらうと思ひます、先きに歌の事を申しましたが、古へは殆んど歌は雲の上人の専有物で有つたやうな観がありましたが、三十一文字よりも短詩形である俳句は平民的に大流行がしたものであります、諸姉が或は諸姉の家族知己等が、不幸にもいたつきに有らせらるゝ時、歌俳句などを以て己れを慰め人を安ぜしめ得るならば、私は最も崇高なる人格として推奨するのであります、古來女流

俳人が世に傑出し是等の女流が多くは中流以下に、しかも遊女の如きものに在りしとすれば、今日十七字詩たる俳句が最も廣く上下を通じて流行する時代に於て一人の女流作者の傑出するもの甚だ愉快であらうと思ひます

井の端の櫻あぶなし酒の酔
君は今駒形あたりほとゝぎす
鍋炭の流れ止つかし燕子花
風は風雪には雪の柳かな
奥底の知れぬ寒さや海の音
いかに是等の俳句が女子の性格を表はして一種の感に打たるゝでは有りませぬか
ことに婦人が優艶なる容貌を以て内に在りては夫に見えて其日の心勞を喜ばしめ、外に在りては社交上まめやかに處するといふ事になれば生涯を通じて最も愉快に美の享樂を得るであらふと思ひます、とりも直さず最も高尚なる婦人本能の性格を完うするに一致するであらうと思ひます

秋色 高尾 千代 川の 哥 川

育兒の經驗

光藤泰次郎

九 冷水摩擦

子供を積極的に強健ならしむる他の一つの方法としては、冷水摩擦をやらせませす。此の冷水摩擦の効用あるとは、明治廿八年の頃、國の師範に居つた時、三島通良博士の講演によつて始めて承知いたしました。爾來冷水摩擦の信者となりまして、十餘年殆ど一日も缺かしたとはありません。その効用は非常に顯著でありまして、殆ど感冒を惹いたとはありません。よしや感冒をひくことがあるにしても、極めて輕微であつて、床に就くやうなことはない。他の人の經驗を聞いて見ても亦さうである。それ故に子供の健康を増進して、諸種の病氣を誘發する感冒を豫防しようと思つて、數へ年三つになる夏の頃から冷水摩擦をはじめます。はじめた當坐はソツトこすりますけれども、幼い小供の事としてヘンヘン泣き聲を立てるゝがありません。老人なんかは忽ち不憫になるかして、可愛相だか

ら止めた方がよからうといふ。冬になりますと風は寒く、空氣はつめたく、汲み立ての水も手拭にぬらしますと、いとい冷に感ずるやうになりまして、素裸にいたしますと、泣き聲をあげるゝが少くありません。老人や世間の人は可愛相だから御止めになつた方がよからうといふ。尤も世間一般の人といふものは、かういふ事にあまり注意を拂つて居りませんから、私共が冷水摩擦をやると、感冒をひきはしないだらうか、寒くはなからうかなどいひますし、夏井戸水をかぶつても喫驚する位で、冬の朝にやらうものなら、何か心願があるのだらうか、唯ではあんなとは出来まいなど、評する人達があるから、一切耳を貸す必要はない。どしどしと所信を實行して來ました。此の頃は起き出づるとすぐ自分の冷水摩擦をする。次に長男のをしてやる。長男ははじめた頃には、幾分泣きもし、ペそをかくやうなこともありましたが、今ではすっかり馴れあつて居りますので、喜んで裸になり、進んで力づよくこなせませす。皮膚が餘程丈夫になつたと見えまして、私が力一杯にす

つても痛いとも申しません、又紅くなるのが餘程
遅くなりました。お蔭であまり風邪をひきません。
次に長女をこすります。女のよとして幾分忍耐力は
弱いやうですが、兄さんのやうに出来ないかと申
しますと随分我慢いたします。これも泣くやうな
事はもうありません。其の次に二男のをしてやり
ます。二男は數年で四つの正月を迎へたばかり
でありますから、一日がはりに泣きます。しか
し私は泣けば泣く程強くこするといふ憲法を定め
ておきますし、我慢してやり遂げれば、強いとい
ふ褒詞を與へますので、苦笑をしながらこらへる
とも多いのです。さて宅の子供はいづれも皆強壯
で健全の方であります、しかし誰か一番丈夫で
あるかと申しますに、長男、長女、二男と順次
になつてゐるやうに思はれます。一妹の生れ立ちか
らいへば、體格は長女は長男よりもよく、二男は
長女よりも好いのであります、今日實際の丈夫
さは年齢に比例して居ります。普通子供は成育す
れば成育する程丈夫になる筈であります、私の
宅では確に前にのべた運動の方法や、冷水摩擦や、

すべて鍛鍊的の仕方が効果のあつたものと思はれ
ます。

○ 家庭教育の根本主義

子供の身軀を強健ならしむる方法に就いては、以
上申し述べておきましたが、これは福澤先生のい
はゆる獸身をなすといふのであらう。扱これから
は私の執り來つた家庭教育の根本主義をいべて見
ませう。私は最初子供は干渉せずに放任しておく
がよい、抑へつけずにのんびりさせるがよい、盛
んにいたずらさせて、叱らぬがよいといふやうな、
謂はゆる放任主義、自由主義、不干渉主義にかぶ
れて居まして、危く此の主義を實行しかゝりまし
たが、不圖徳川家康の書簡を見て、すつかり主義
を一變させました。一頃自由主義、放任主義の思
想が流行しまして、之を實行したのが爲に、我が子
の行末を誤るといふ人もなくはなかつたやうに覺
えて居ります、その際であつたから一篇の手紙が
よく私の思想をかへるゝとが出来たのであります。
今參考の爲に其の手紙をのせて見ませう。
(上略) 一、幼少の者利發に候とて、それをほ

め立て、氣儘に育て候得ば、成人の勢つき、終には我儘者と成り、後は親の申すことも聞かぬ物にて候。親の申す事さへ聞かぬやうに成り候へば、召し仕ふ者は猶以ての事に候。左候へば國郡を治むる事はさて置き、身の立ち申さぬやうになり申し候。幼少の節は何事も直成る物に候まゝ、いかやうにさうくつに育て候ても、最初より仕付次第にて、外より存する程大儀にはなく候。是を植木にてたとへ申し候得ば、初め二葉にかゝるなり候節は、人の産れ立ち候と同じ事ゆゑ、随分養育致し、最初一二年も立ち、枝葉多く成り候節、添木を致し、直く成り候様にゆゑ立て、其の内に悪しき枝は芽を出し候と聞き、年々右の通りに手入致し候と、成木の後直なるよき木と成り申し候。人も其の通り、四五歳よりは、添木の人を附け置き候て、悪しき枝の我儘をそだたぬやうに致し候へば、後前に能き人と成り申し候。幼少のうち、そだちさへ枝せばよきと心得、我儘に致し置き、年頃になり、急に異見致し候ても、我儘なる悪しき枝は

かり茂りそだち、本心の本木はほそり候事ゆゑ、直成り申さず候。是には今以て存じ出し候事有之候。三郎出生の節年若にて子供珍らしく、其の上ひかすゆゑ、育ちさへすれば能きとて、氣のつまり候事は致させず、氣儘に育て、成人の上にて、成人の上にて、急にいろいろ申し聞かせ候へども、兎角幼少の節、行儀作法ゆるやかに捨て置き、親を敬ふ事を存せず、心安だてあれば、其ゆゑ何ゆゑと申す譯はかり存じ、後は親子のあらそひのやうに成り候て、毎度申しても聞き入れず、却て親を怨み、親よりは一鉢の生れ悪しきと存するやうに成り行き申し候。夫れにこり申候まゝ、外の子供は、幼少より、我等の前にて行儀作法能く申しつけ置き、若し少しも不行儀我儘の事は、我等へかくし申さずて、申し聞かせ候様に申しつけ置き候て、承け給はらせ置き、前へ出で候節、毎度或は叱り、又は、是はか様には致さぬものと、能く能く申し聞かせ候故、影日向なく直かに育ち申し候。第一、親をこはく存じ候へば、つゝしみよく、

親へ孝行を致し候事を覚え申し候。其の上、小
身と違ひ、召仕ふ者の申す事、よく承り候様に
申し候事、專一に申し聞けべく候。事にて候。
親の有るうちは慎み候ても、親の居ぬ時節に成
り候へば我儘に成り、國郡を失ひ候者、昔より
多くこれ有之候。兎角常の側召仕ひの者、第一
孝行と、天命と、下へ慈悲を掛け、武家の事、
幼少より申し聞かせ候得ば、自然と身持よく成
る物に候。君臣と申す事は定まり事にて候へど
も、君たる者は臣君と心得申す事專一のよし、
我が幼少の節、安部大藏、毎度申し聞かせ候に
尤も臣として君へ仕へ候事ゆゑ、如何様に無理
の事も、是非なくうけ給はり、無道の君にも仕
へ候へども、夫にてはまさかの用に立たぬ物に
て、兎角上よりは、何事によらず、慈悲もかけ、
最負へんばなく、賞罰を正しく、臣を君のごと
く心得候へば能く候。臣あつての大名なれ。召
仕ふ者なくては大名のせんはなく候。兎角に幼
少の者には、召仕ふ者の申す事、能く聞け能く
聞けと常に御申し教へなさるべく候事專一の事

にて候。
人は人を鏡として、身を正しく致す外はなく候。
一、我儘にては、願望の叶ひ候事、決してなき
事にて候。
第一、我儘にては、親を忘れず親に見かざられ、
第二、親類にうとまれ
第三、朋友にうとまれ、
第四、召仕ふ者もうとみ、
第五、我が身のこと、悉く望叶はず。
右五箇條の通り成り行き候へば、身で身を恨み、
天道をうらみ、人を恨らみ、後は煩はしく心亂
るより外これなく候。
幼少より物事は自由ならぬ事、能く能く心得申
すべき事にて候。(下略)
此の手紙が動機になつて、私の思想は一變いたし
ました。今までの自由主義の代りに、私は悪いと
は嚴重にとめると共に善い事は自由によれといふ
主義をとりました。放任主義の代りに、悪いとは
びしびしとめる、しかると共に、善い事は進んで
やれといふ主義をとりました。簡單な言葉でいつ

たならば何といつてよからうか、折衷主義といはうか、勸善懲惡主義といはうか、適當な言葉はわかりません。

一、從順

勸善懲惡主義を取つてから、先子供に要求し、養成しやうと努めた徳は何かといふに、第一が從順の徳であります。平易な言葉でいへかへたならば、よく親のいふ事をさへ、よく親のいひつけを守り、よく親の命令を實行する事であります。幸に長男は生れつゝも至極まつすので、素直に生ひ立ちましたので、割合に此の徳は實行が出来てゐるやうに感じます。一体總領は大人しいと世間で申します。が、どういふ理窟があるか知りませんが、他の子供に比較して大人しく育つたやうに見受けられます。極幼少の頃に、よく演説なり説教なりを聴きに参る時、連れ参りました。が、分りもせぬ事を聴いて居る子供のつらさはどれ程であつたでしょう。しかし一皮も、聲を立てたが、妨害になるやうなとか、泣き聲あげて傍聴者の注意を亂すとか、左様のとはしたとはありません。活動を生命とす

る子供の事として随分つらくはあつたらうが、よく父母のいふ事をさへしました。長男や二男や二女あたりは、少々趣は違ひますし、取扱ひも少々手加減を要しましたが、大體こちらの思ふ通りに從順に仕立てる事が出来たかのやうに見受けられます。

一二 正直

第二に養成しようとしたのが正直で、何でも正直にせなければならぬ、虚言を吐いてはならぬと教へて居ります。それ故に若し虚言を吐くといふやうな事があれば、容赦なく叱り懲らしめて、からき目にあはせす。けれどもこれも幸に實行が出来たらしくて、叱り懲らす必要は殆どありませんでした。

一三 意氣を鼓舞す

子供を失つた人は、怖氣がつくと見えまして、十分に子供を仕込むといふをしないので、唯無事に育てばよいとごく其の慾望を最低減度においてゐるのを見受けますが、甚だお氣の毒に存する次第であります。多勢ある内に一人なくすといふのな

ら左程でもないでしようが、よく世間には、生れ
ては死に、生れては死に、少し育つては死にして、
随分子供に不仕合の人を見受けます。かやうな境
遇の人は、たといどんなであらうとも、育つて呉
れさへすれば善いと、子供の教育に對する慾望が
低下するのは、人情の自然であるのだらうと思ひ
ます。私はさういふ境遇に立つ人に非常に同情を
寄せるのであるが、しかし其の教育の主義には御
賛成申すとは出来ない。私はつもらん子ならばほ
しくはない。苟も子である以上は十分持つて生れ
た性能を發揮させてやりたい。よしや中道にして
斃れても、子供の本分を盡したならばそれで満足
であるとかやうに思つて居る。それ故に私の教育
主義はちと厳しい方である。自ら子の爲に善い事
であるとは確信したらば、子供が泣かうが、痛から
うが、辛からうが、決して容赦はしません。斷然
實行いたします。前に申しました冷水摩擦の如き
此の二月の寒空では、四才の小兒には随分つら
らうと思ひますが、しかし眞に身體の爲めになる
との確信がありますから、敢然實行して、決して中

途手をゆるめるとはありませぬ。さうしてかうい
ふ場合には、「お前は弱虫かチャンチャンか、なに
日本人だ。日本男兒なら、此の位のとを我慢しろ。
此の位の我慢が出来ねば日本男兒ではないぞ」と
いひいひします。子供心にもチャンチャンとか弱
虫とかいはれるのは、不名譽のと、意氣地がない
と承知して居るのか、大へんに嫌ひまして、大
抵は痛いのを我慢して、私は日本男兒だ、此の位
は我慢出来ると、半分は泣きながらも我慢するも
のである。其の他何をやらしても私は此の流儀を
持ち出して、子供の意氣を鼓舞して居ります。さ
うしますと子供の我慢心はだんだん強くなりまし
て、随分堪へ難い事まで随分我慢するものが出来
るやうになります。

(まだある)

▲色を白く肌を滑かにする法

風呂に入つた時肌を適さに洗ふやうにする。色を白くする。例へば襦袢で洗ふ時も上から上へこき上げるやうにして洗ふのである。また葛粉と糠とをキヤラコにに入れて、廿分蒸氣立て夫れを小桶に一杯ほどづつ入れて入浴を二週間程もづいけると色が白く肌滑かになる。巴豆香か燕麥の引割をフランネルの袋に入れ入浴する五六分前に湯の中で振出し入浴するもよい。入浴後の化粧には薄荷サリヒヤ、迷迭香シタルテンなど各一オンスと化粧用の酢を六合とを混ぜたのを刷毛で塗り、其のあとを奇麗に拭き取ると肌がツルツルとして非常に美しくなる。

保母となりし最初の一周間

某女

十一月九日 土曜日 晴天

観察。外遊の時、寧子、仲一郎、英、捨子、愛子の六兒と共に砂遊びを致しました。有坂は獨立してお盆を製し、獨りで喜んで居ます。あまり團体的の遊びを好まぬ風も見受けました。しかし智力は充分發達して居て、しつかりとして少しもおちけて居りません。金子伸一郎は注意が永續せず、一寸土を掘つて直ちにあきたらしくて、ドングリを拾ひに行きました。又それにも飽きましたと見えて、小石や小葉を拾つて持つて来て、先生上げませうといひます。それから又一寸土を掘り初めて、遂にまたまたつたものを作りませんでした。畠山は幼稚園の御山を型らんとて作業して居ました。小林はそのお山の上に家を建て、お料理をこしらへて遊はんといひ出し、瓦を拾つて建築を始めた處が、畠山は泣き出して走り去らんとしました。

二十

た。よほど神經過敏と見えますから、畠山をすかし、小林には幼稚園のお室か建つて居る位置に、お家を型つて建築なさいと命令しましたが、よく従順に聞きました。小林はなかく思想家でありまして、立派なものを作りました。その大体は瓦の片で家を作り、金子の拾ひ集めました木の葉を、その中に布いて疊となし、煉瓦を上せてテーブルだと云ひ、その上に小葉に砂をつゝみ、オムレツのお料理だといつて喜んで居ました。それから、中庭を作り枯葉をさして垣根と呼び、門の戸を瓦で作し、開け閉めをしてゴロ／＼／＼／＼／＼／＼と云つて居ます。何故垣根を作るかと問ひますと、盜賊が入らぬためだと答へました。小林は思想家になると共に熱心なる實行家であります。この建築の材料は、自分か集取して人を使用せず、作業中にも困難を排して一生懸命に努力しました。中島と桐島とは、お山の下に小池を掘つて、その周圍に旗を立てました。中島の思想はよほど幼稚園と見えて、桐島の意匠のまゝでありました。今日の談話は私がやりました。活材は八藏と神様で、

その目的は欲張りをいましめることであります。大々的の失敗を見事にやりました。豆細工は先生がせられました。小林は他兒よりも複雑なる形のもの、即椅子を作りましたが、思ふ様に出来ず、それには他兒が簡単なるものを二つも三つも作つて居るに、自分は初めのが出来上らず、普通ならば泣き出すかも知れない場合であります、一生懸命に傍目もせず續けて居ます。意志の強い落ち付いた兒と朝認めましたから、かまつてやらすに見て居ました。先生が來られて手傳つておやりになりました。その時にも先生のなさるのを熱心に見て居ます。桐島は「オカシナ顔をして見て居るよ」とからかいましたが、いかりもせず、一寸笑つて又熱心に見て居ました。その様子が自分は出来なくて残念だとか耻しいとか、思ふ様子はありませんでした。未樂しい子と思はれます。所感。私の談話につきて先生のは批評は左の通りでありました。語尾の不明なこと、圖の使用方法が單調であつたこと、幼兒の注意を集めるには口を喋々するより、

唱歌でもして落ちつかせた方がよいとの事、談話進行中幼兒の發言の處置はなるべく取り上げる主義でやるべき事、談話内容が抽象的よりも實際的である様にと、丁寧親切に御指南下されました。私は如何にもと存じまして、將來大に注意せんと思ひますが、私の所感を挙げます。先生はよほど御遠慮遊ばして、おひかへ下さりはすまいかと存します、私の談話は實になつて居ませんでした。第一、立場が誤つて居りました。談話は幼兒のためにし、教生のためにせぬのかあたりまへでありますに、私はこれの反對的立場に居つたことは事實であります。その證據に幼兒が知つて居るといひました、イヤおまへは知つて居てもマーお待ち、私は予案通りにやりますといはねばかりに、幼兒の要求を知らぬ顔にして進行しました。即教生のために談話するので、子供のためにしたのではありません。これが最大欠點であります。第一、幼兒を知らずに話しをした事が實に大膽でありました。幼兒といふものは何でも活動したい、

自分の思想は機會あるたびに發表したいと思つて居るに、その事を全く忘れたものですから、話の途中でいろいろ發言しますのを、大に吃驚してうろたへてしまひました。

第三、元氣がなかつた事が大によろしくありません、幼兒は實に活氣に充ちて居るのに、それに対しては教生もよく調和しなければならぬ筈を、心配らしい元氣のない態度で談話しました事が實に遺憾でありました。

第四、幼兒の思想に後れて進んだ事もたしかな事實であります。幼兒の心機の早いことはよく聞いて居りながら、常に後れて居りました爲に、幼兒が先きの事を云ひだすたひに、その處置を誤り且、迷惑らしい顔付をして見せました。それで幼兒が飽きない様に願ふは、木によりて魚を望むと同一であります。

第五、話にシツコイ處がありました。幼兒は實に單調なものでありますに、話の終りに面白かつたでせうとか、教訓めきたる事實を反復するとかし、彼れ等を感情で導くよりも理性によつて導か

二十二
んとつとめた形跡がありました。私は幼兒に對するお話は語調を子供らしくして、自分事る第二位ではなさかと思ひました。

● 女子教育の要點 (建部遷吾)

現代の女子教育は一般に女子の女性的性質を矯めることに於て、餘りに全力を盡しはせんかと思ふ、儒教の理想に於ても天命之謂レ性率レ性之謂レ道修レ道之謂レ教と云つてある、詰り教育と云ふものは、人性の赴く處に従つて之を基き邪路に陥らしめざるやうにして行く事が普通一般の道筋であつたものらしい、然るに世には西洋の哲學の或る學派、殊に印度の婆羅門教の或る派、就中厄夜邪派の如き、譯も無く禁慾を行ひ、難行苦行をして一生を終り、それを以て教育の極意でありとする者がある、明治の女子教育は時とすると厄夜邪哲學を實行して居るやうに我が輩の眼に映ることがある、舊幕時代の教育は極めて狹隘なるものである代り、極く選まれたる女子でに限りて居たので、天然に相當の資格を備へて居つたが、今日では士農工商華士族平民皆平等に教育を受けることになつたので、昔なら入學を拒絶されそうな賤しい職業の娘までか、溜々として月謝を拂つて女子教育の機關の中に入つて來るのであるから、女子教育を受ける處の者の平均成績が非常に下落せざるを得ぬと云ふ事は自然の勢である、故に我輩は第一に教育を施し、第二に人の中に就中淑女の教育を一般に施されん事を望む。

教育者の樂

樂 天 子

ある家に菊作る翁あり、昨日今日種類分けたる苗を庭園に移し植うるに余念なし、この翁嘗て教育に従事せし人なりければ、菊作る事を教育に比して曰く、世の教育家は常に他業に心を寄せず、余の菊作りと等しからんことを思は、始めて良教育家良教師たらんことを得んと云へり。宜なるかな、翁の菊作るを見るに、夏に近づくと更めて庭園に植付け、照る日のかげを覆ひ、夕毎に水うちそゝぎ、塵だにすゑじとふふし立て、舊持つ頃に至れば、日に幾度となく見まはりて、枝花の望みなきは摘みとり、たい一つ末の蕾に心をこめて、いと大きく咲き匂はするなり。その花盛り的美しさ、鶴の舞ひ昇るやうなるあり、龍の天くだるに似たるあり、鷹の爪のごとく曲れるもの、鶏のけづめのごとく鋭きもの、白に赤に黄に樺に、とりと皆美しく眺めなり。さればその近隣の

もの皆もてはやし、人々朝な夕なに、この翁の庭園に立よりて、しばしその目を養ふを常とせり、又程遠き都よりも聞き傳へて、わざと見に来る人もあまたあり、時には禮のしるしにとて、黄金あまたとらする人もあれど、翁は、之をかたくいなみてうけとらず、却つて一首の詩歌をのこす人に、より多く感謝しをるなり。あはれ、此の翁の心とその行ひの様、面白からずや、また、貴からずや、若しこの翁をして、黄金のために菊を作らしめ、黄金の多少によりて、喜びを異にするものならしめば、花の眺めもいかばかりか失せぬらん、わや錦の匂ひもいかばかりか薄らぐべし。さて茲に改めて世の教育者に事問はん、諸君はこの菊作りの翁の心を、おかしと見ざるか、貴しと思はざるか、慾を知らず金ほしからぬ愚人なりとて卑しむるか、更に一步を進めて言はん、菊の花をもて、彼のやさしさ美しき人の子と見なし、この翁をもて人を教育する諸君の事と假定せば如何。六歳にして、本月始めて學びの園生に入り立つ子等、今床がへしたる菊の苗に似ざるや、朝毎

に塵をはらひ、水うちそへる事、諸君が毎日に鞭とりて彼等を教育したまふに何ぞ異ならん。あはれ諸君は、色香うるはしく咲きたる花を見て楽しみ、その樂を人々と共にする翁に倣はんと欲せざるか。黄金の多少によりて喜びを異にせざる、黄金を得るを目的とせざる、翁の高潔なる精神を何とか思へるか。余輩は、彼の俸給の多寡によりて常に學校を轉ずる、一種輕薄なる教育者を排斥するものなり、況んや道ならぬ金錢を貪りて、之を自身の飾となす偽教育者に於てをや。

さりとて、教育者として衣食の資なかるべからず、妻子をも養はざるべからず、時勢に後れざるため、常に教育書も購讀せざるべからず、されば全く無報酬にてとはいはず、また社會は教育者を優遇すべき義務をもてり、出來得る限りは有形無形に待遇を厚くすべきは人々の義務なり、教育者なるもの常に肥料たるべき教育書の研究を怠らず、已れの分に安んじ、高尚なる職務と、遠大なる希望とを全ふすることを樂しみて、彼の菊作の翁に倣はんとことを切望す。菊作のわざは風流なり、風流は

利慾と共に兩立すべからず、されば、もし菊を作るとして利を營まんとならば、俗の俗をつくして實に趣味なくして、おかしからん、彼の團子坂の菊人形何處に風流のおもひきある、さて教育と云ふ業はいかに、教育は神聖なり、高尚なり、また利慾と兩立するものにあらず、愚なるかな、神聖なる高尚なる教育を以て、自己が利慾を全ふする一種の營業と思へる偽教育者のありしとは、あゝ斯くの如き人のありしは、もはや過去に屬せしならんか、余輩は教育者は、終始その神聖高尚の維持者たる大任を負へることを忘れざるを切望して止まざるなり。

利慾を目的とせる菊作りは、決してまことの菊を作ることは能はざるなり、よし作りても其の庭園の入口には、風流ならぬ文字か、げられ、花の高潔なる價はため失はる、世の一部の輕薄なる教育者に告ぐ、諸君若し多く金を得んとならば、先づ其の神聖なる高尚なる教育界より脱して、他の銳利を事とする商工界の群に入るを要す、教育に従事しながら其の心常に利益に支配されつゝあるは

似て非なるものなり、わが教育界は、菊の花そのものを樂みとせる菊作りの如く、教育そのものを樂みとする教育者の手に育てられんことを望むものなり、あはれ風流なる菊作りは誰れ、神聖なる教育者は今幾人かある。

予の好める娯樂

(佐々木信綱)

よく勉めよく遊ぶといふ事は、最も望ましき事で、よい娯樂なと求めてゐるが、最も好むといふ娯樂が無い、幼ない時母が謡曲を習ふので一所に習つたが、どうも性に合はぬので止めた、父が晩年老いのすきびに碁を打つたのを側で見おぼえて、碁の趣味を知つたが、専門の用に頭を悩ました後、また頭を悩ますのはと減多に打つた事は無い、始終机に向つてゐるのであるから、戸外の運動をと思ふて、大弓は師に就き、テニスは弟子の人の家にグラウンドがあつたので暫く習ふたが、遂に中絶した、それに家の庭が狭いので、家でする事が出来ぬからであつた。

若し娯樂といひ得べくんは、余が娯樂は讀書と旅行とである、晝の間は自他の用に煩はされるが、物しめやかな夜、または朝疾く會心の書を讀む樂しさはまこと言はむ方なき樂しさである、春と秋によく旅行小する、夏は色彩の變化に乏しく暑くもあるので、春の末夢が青く菜の花黄なる頃天長節の前後、野も山も黄に紅に染め出づる頃が、最も旅行にふさはしいから、春秋に旅をする、讀書と旅行はいづれもわが専門の業に關して、益が多いのみならず、娯樂としてもよい娯樂であると思ふ、(新婦人)

紀念の牛塚

川口孫治郎



此由來を語るのは、先づ牛の性格を略述する方が便利でわる。牛の性格を略述するには馬のそれと参照する方法によるがよく分つて且つ覚え易い。世に牛飲馬食といふ諺があるが、食べ方には牛馬共に作法の立つて居ないことは勿論だが、併し馬は必ずしも然う大食をしない。彼の甘藷に棒を差したやうにイヤに肥つた馬や、臙元豆に針金を突張つたやうにイヤに瘡せた馬などが暴食をするのは皆腸胃を傷めてから後のことであつて此等は例外である。之に反して牛は生來腸胃が丈夫に且つ大きく出来て居るから、盛に食ひ大に飲む。味よいものなら胃腸が破裂しても尙は食ふ。少し品格が上等でない。

馬は元氣のよい時には常住起つて居る、大層氣分のわるい時の外臥して居るのが一寸見付からぬ。牛は之に反して氣分のよい時は必ず寝る、腹加減よく食事でもしたら早速横になつて居る。病氣の時は更に脚を投げ出す。頗る無作法である。尤も生理上の常患などの時には起つて落付かないこともある。

水に入つては、馬は爪の脱するまで泳いで居るが、牛は尾の抜けるまで泳ぐ。そして其泳ぎ方が馬より下手である。

陸上を歩ませば、「駒の朝駈け」とやら馬の最初は元氣で後に弱りの來るのに對し、所謂「牛歩遅々」として終日行進を續けてよく千里の遠きに達する牛の根氣が聊か牛の名譽を回復するに足る。

のみならず「商賈は牛の涎」といふ諺があつて、短氣は損氣、ネチ／＼やるに限るといふ話である。

素人目には、涎を流して居る者にあまり氣の利いたものがなく、逆も文明開化とやらの近頃金儲けも出來さうにないやうに映ずるけれど、元來涎をくるものは大概健康なもので其ネチ／＼した、

あまり氣の利かないやうなところに收利があるさうで、何時も帳尻では純益金が多いさうな。そんな點から牛は更に名譽を恢復しさうである。

火殊に煙に遇つては、馬も牛も共に九きり意氣地がな、波の消防機關を曳く馬や、隊長をのせた砲車を曳いたりする馬などは特殊の訓練を経て居るから平氣で火燭の前にも行動するけれども、普通の馬や牛即ち彼等の天性をわりのまゝにのして居る馬牛は共に九きり腰が起たぬ。彼等の飼養場若くは其附近が猛火に包まれた時には曳いても突いても決して逃ぐることを得しない、自から焼死しても動かない、此際は人の親切も彼等には徹しない、彼等は火の恐ろしさに目眩みて頭の中には火燭の恐しさ以外に何の働もなくなつて終つて居るのである。蛇に魅れられたる蛙と同様に自から好んで焼死をするのである。夫故に彼等を飼養せる人々は其飼養を掌らしめたる者共に對して、萬一の場合には彼等牛や馬が火燭に深く注意しない中に逸早く外套が袷のやうなもので彼等の面部を全く裏んで然る後に其舍から引出して避難

せしむるやう注意を與へておく必要がある。つまらないことのやうだが萬が一の心得になる。此火焔に對する牛と馬との態度は同等で資格に於ては互角である。必ずしも牛は今までの通算で馬に負けては居ない。

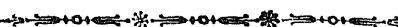
訓練した狩獵用の馬や軍馬などは別として、普通の馬は不意に前途に人に立塞がられては覺えず一寸立停るのが其特性であることは既に前に述べてゐいたが、牛に至つては袴の間でも袖の下でも處かまはず潜つて狂つて逃ぐる。ドウも其態度に品がない。思ひ切つて突き僵して進むのならば暴の中にも取得があるが潜つたり抜けたり丸でなつて居ない。

田舎の小兒の御話に、馬が人の足を踏んだならば其後七日の間後悔して煩悶する。牛は之に反して殊更に人の足のところへ己の足をもつて行つてギョツと振ちて踏み付けて夫から後七日間は氣がせい／＼するといふて居るさうである。若し

馬が後脚で跳ぬる時には双方ともに後方に伸びて

思ひ切つて居るが、牛の跳ねかたが穢い、片脚で後斜に外方に蹶るのである、所謂彈くのである。拙いのみならず見苦しい。馬が嚙み代に、牛が上顎の前方には齒がないので噛めない爲に自然の神より貰つた双の角を振り廻はす、その方が不器用でトント要所に當らないで無茶苦茶にコヅき廻はすのである。

馬の奮闘の態度は眞項より派手に嵩にかへつて打つて出るが、牛の奮闘の形式は下手から歪みくねつて擔ぎ上げて振り落さうとするにある。それで馬に對しては前既に述べた通りグツと彼の頭を押へて俯かしむるに限るが之と全く反對に牛を制壓するには其面繋の端なる鼻木を以て思ひ切つて高く仰向けにさし上ぐるに限る、仰がされては牛は全く無戰闘力である。見給へ遠くに輸送する貨車積みの牛どもの鼻高く縛められて居るのを。之も全く瘋車進行中彼等幾十匹が同盟して貨車中で一揆を起して其暴力を振はれては大變であるからである。されば彼等馬なり牛なりが御隨意にあればてもよし、人間には相應の制馭法は幾らでもある



が、唯彼等の戰鬪形式を比較するとドウも牛の方
が險で而かもシミツタれて居るやうに思へる。
長閑な牧場に逍遙して居る洋牛のそれには決して
左様にも思はないが日本産の牡牛の強大なるもの
に至つては誠に悽愴の氣が四邊に瀰漫して居るや
うな感がある、其仁王の用ふる楔の如き二尺にあ
まる頑疊なる双角は一入の殺氣を添えて居る。牛
を扱ふを常職とせる者は馬を扱ふ者より人としての
格が一段低いのが日本で從來の實際であつた
が、その格低く所謂癡猛派のもの共でも時々此
牡牛に一氣に突き平げらるゝことがあつたので
ある。而かも一度人間に對して勝利を得し經驗
をなすや彼癡猛性は益増長して少しく意に協は
ざるや直に角を揮つて此癖を出すのである。従つ
て之に對して人より虐待が加はるゝ、加はるにつれ
て益々ねづくる、ねづくるが故に虐待するといふ
のが從來の習慣であつたのである。
往年葛城山脈を南より越えて泉州の牛瀧に降つた
ことがあつた。牛瀧といふ名と少しも關係のあるわ
けではないが兎に角、嶺より牛瀧神社に降る途中

に駄牛の大きなのが山路の双方に彼方此方と横臥
して居る。彼等は其駁者共が新の荷造りの出來上
るまで待たしめられて休息して居るのであつた。
其中少々離れて、丈夫な綱の端を嚴重に松の樹に
縛りつけられた一匹の拔群の大きなのが頗る癡猛
な相貌をして而かも疑乎として起つて居つた。其
キラリと我一行を睨むだ面魂には、我輩にも一見
之は雷の代物ではあるまいと讀めたのであつた。
其處へ一人の駁者が慌てゝやつて来て、「通るなら
早く通つて下さい、牛の前に立止まつては復た間
違があつてはならぬから」と我一行に懇請する。
之は面白と思つたが君子危に近よらずで我一行
も早速、歩を轉じて降りかけた。彼駁者も安心の
態で其荷造場に返るべく我等の後をついて來たの
で我輩は一行より稍後れて彼と歩を共にして不圖
氣についたのは前刻來彼の手にして放さざりし二
尺ばかりの紅紙で巻いた火箸狀の棒であつた。そ
こで我輩は前刻彼のいつた「復た間違が」の一語
を話の糸口として次で其紅紙巻の棒の用向につい
て尋ねてみたところ、彼の答によつて一度は少々



ゴツともしたが、終にはホノ／＼と可笑しくもあつた。一伍一什は下の如くであつた。彼取者の言に據れば、前刻怪しいと認めた彼牡牛は之まで幾多の重罪犯をやつたものであるさうで通例の牛なら夙に葱と懇親の運命に入つたに相違ないのだが、持つて生れた蠻力、負ふにも曳くにも通常の牛の三倍の重荷に屈托せぬといふ一癖ある爲に、今もあゝして薪負ひに重寶がられて使役せられて居るのだが、前刻のやうに見知らずの一行が今少しグズ／＼しやうものなら其中の誰か一行が突然彼の角先きにかゝつたかも知れない、復た間違ひがいつたのはそこをいつたのだといふ話であつた。

持つた紅棒の由來については更に異様の感じをさせられた。といふは彼羆牛の前々の取者に對して重罪犯をやつた時、勢に乗じて暴れ廻はつて山の隅の隅の仕事場まで突貫したが、之は、石工が臨時装置の轡の口の松炭の焰をたてゝ活つて居る中から、右手に握れる尖端の何時しか紅くなつた鉄火箸もて、灼熱せられて眞紅になつた仕事用の

石切鑿を挿んで、之を鐵床の上に引上げ、今や將に左手なる鐵槌を揚げて焼刃の上に打たんとせる其一瞬であつた。誠に絶体絶命逃げも隠れも退き引きならぬ苦しさは我知らず石工の左手から鐵槌が横に飛んで右手の焼火箸が眞直ぐに前に突出でた。其灼熱せられた尖端が目を瞋らし怒濤の如くへる如く一突きに石工を屠らんとしてウンと突きかけて来た彼猛牛の鼻の先に御生憎にもチリ、チュと張合ひよく焼付けといふことになつたので、流石の猛牛も甚だ狼狽して態度を崩つて退却した。攻撃せられた刹那に夢中であつた石工さんも敵が退却したので多少餘裕が出来たと見えて早速の機轉を利かし例の焼火箸を手にするまゝ今度は逃げ行く牛を追ひ廻はし根強く追ひ詰め勢込んで焼火箸もて威嚇すると、彼猛牛も到頭陥落して此石工の焼火箸の前に從順に降服してしまつた。爾來彼猛牛の取者は始終焼火箸を用意して萬一彼が狂ひ始めれば早速焼火箸を示して鎮撫して居つたさうだが、灼熱せる鐵火箸を年が年中持つて歩くといふことは口でこそ容易のやうだが實際では中々

六ヶ敷、随分困つて居つたさうだつたが、必要は
新工夫を生み、生れ來つた專賣特許の焼火箸とい
ふのが前に所謂二尺許の棒に紅紙を巻いた焼火箸
と稱するものであつたのである。此紅紙の棒が真
の焼火箸の代用として矢張り彼猛牛に恐れられ
て、全く眞の焼火箸と同様に役立つて、今日現に
用ひて彼猛牛を役して居るのであるといふ話
話の始めはいやに凄かつた割に終の一句が何んだ
か少しホンノリと可笑しかつたと思つたのは、以
上の通りであつたのである。
右の一條は歸校の後、市の新聞紙上に披露をして
いたが其後年餘にして彼牛追が或日其紅棒を携
帶することを忘れた爲に到頭亦山の途中でやら
れたとの事、並に彼猛牛も結局其落付くべき運命
に片付いたといふことを記者から報知せられたこ
とがあつた牛君何うしても犂猛と見ゆる。



●青年に教ふる記憶術十則

糸左近

- (1) 新らしき事實に接する毎に既に熟知せる舊き事物との關係を明にせよ。(2) 事物を觀察探究する毎に心を之に專にし、餘念あるべからず。(3) 精神を爽快にし興味を感ずるやうに工夫せよ。(4) 記憶を過勞せしめてはならぬ。一時に多く覚えんとするは、恰かも一時に身體を肥さんとして暴食するが如し。(5) 覚え難き事でも反覆すれば覚え易き事よりも忘れぬものだ。(6) 記憶を疑ふな。即ち覺えて居れやうかと己の記憶を疑ひ過ぎるは却つて忘るゝ種である。(7) 用なき事を忘るゝやうにせぬと大切な事を忘るゝものだ。(8) セカ／＼して勉強すると腦力を傷め、大いに記憶を悪くする。(9) 人が十事を覚ゆる間に、我は五事しか覚えななくても落膽するな、我の五事は終身腦裡に残り、彼れの十事は數月の間しか腦中にないかも知れぬ。(10) 彼は速く覺えて長く忘れず、我は遅く覺えて早く忘るゝとも失望するな彼は何等の應用無くして一生を送り、我は僅かな事でも大なる應用を逞うするかも知れぬ、要は平々坦々たる心を以て學ぶに在るのみ。

(中學世界)

蜜柑のお料理

藤五代策

蜜柑のお料理の仕方、も四五十種類からある。その中で私は左様に澤山の仕方は存じませぬが併し元來物好きでありますから蜜柑を一籠ばかり買つて來て種々様々に切りためして見ました其の結果口繪に揭げてある通りの四五の面白料理法を發見しましたから紹介いたします。若しお閑があつたら經驗してご覧なさい。屹度面白ものが出來ます。今左にお料理の仕方を説明しませう。

一、菊花料理（其の一）
先づ丸き滑かなる蜜柑一個をとり頂の部を上になしてよく利るゝ小刀を以て圖の如く頂より下部に向て十刀ばかり皮のみ切るのであります。が余程氣を付けぬと實を切りますから小刀の切れ加減に注意せねばなりませぬ。斯く皮を切つたらば（二）圖の如く一片つゝ皮を脱ぎ之れを交互に曲げて菊の花の瓣に似するのであります。次に

を青色の小皿に入れてお客様のお膳に盛ります。と眞中の蜜柑の袋は菊花の心に見え皮は周圍の辨に亦皿は葉の形に見えお料理の上に一種の異彩を放つのであります。

二、菊花料理（其の二）
其の（二）の菊花料理は圖に示す如く蜜柑を横に切り放し上下兩片とも其の切り口より皮のみを十二三片ばかり縦に切り各片を脱ぎその先端を丸く菊の辨に似するのであります。是も同じく蜜柑の實は菊花の中心となり皮は周圍の辨に見えます。

三、幼稚園料理
幼稚園料理は亦橘料理とも云ひますが是れは最後に掲げたる智慧の輪料理に對して極めて平易であるから智慧輪料理を高等料理と云ひ橘料理を幼稚園料理と云ふのであります。其の法は先づ蜜柑を（一）に示す如く球の四分の一つ、順次に中心まで切り通すときは（二）に示す如き橘の花に似たるものが二つ出來ます。丸きものを四等分するには先づ兩方の指に見

當を付けて後ち徐に小刀を入るれば正しく四つに切れやす
 四、蟬の料理
 蜜柑を縦に四つ或は五つに割り其の一片をとり
 二この點線の如く皮のみを切りて蟬の翅の形に
 切り先端を僅かに切りて蟬の目の形を切り込む
 とときはさながら蟬が翅を擴げた様に見えるす各
 片とも皆蟬に作るときは余程賑かでありす
 此の蟬の料理法は梨で行ひますと尙一層面白
 のでありすその法は先づ梨を縦に四つ位に割
 り其の一片をとりて皮を脱ぎ蟬の翅に作り次に
 頭と目を彫みて十個ばかりも作つたならば鉢の
 中に水を入れて今作りし蟬を投じますと翅は上
 に反りて餘程よく蟬に似るのでありす
 五、智慧の輪料理
 此の法は先づ蜜柑を圖の如く上下の半球に半圓
 の輪を切り込み次に縦横の厘りの四分の一つ、
 を小刀にて中心まで切り通すのでありす此の
 とし始めに作りたる半圓の輪を切らざる様に注
 意せねばなりません

次に小刀の先端にて兩半球の輪をよく引き上げ
 て球の上に少しばかり載せかけ輪の切れざる様
 に少しづつ拗ち廻はすとときは二この如く兩方の
 輪が繋ぎ合つて所謂智慧の輪になるのでありま
 す
 此の法は中々困難なので逆も一二回では完全に
 出来ません蜜柑も成るべく膚の滑かに少しは日
 數を経て皮の少しく潤みて堅韌になつて居るも
 のが作り易いのでありす此の外蜜柑の料理法
 は幾通りもありませうから皆さんで工夫して切
 つてご覧なさい
 要するにお皿の上に蜜柑の丸そのまゝか或は只
 の輪切りでは余り蠻的で趣味がないから今私が
 述べた様な料理を皿に盛つてご覧なさいお客
 様は殊の外歓迎せられて一座の興を添へること
 もありませう。





此ころの料理

石井泰次郎

蛤魚羹

クラム チャーダーの拵方

〔原料〕はまぐり五合、馬鈴薯三つ、牛乳一合、食鹽三匁

はまぐり貝をむき去りて水にて洗ひ、湯鍋に入れて、十分間ほど煮て、箆にあげ（煮汁を別の鍋にし）たみ置くべし

馬鈴薯の皮をてたにむきて、二つに切り小口より薄く切り、これを右の煮汁を以て湯煮すること二十分間ほどして、

右の蛤の湯煮したるを、よく貝などつきて有らぬ様に注意してよりて、じやがいを煮たる鍋に入

るべし
さて牛乳を入れ、鹽をいれて煮ること五分間余にてよし、

しんちよ仕立、

伊勢海老

小椎たけ

茶碗 くらわぬ

みづば 柚子

○鯛の肉（ひらめ、鱈などにもよし）を、おろしてこまかに切り、出刃庖丁にてたき、搦盆に入れ、搦木二本にてつき合せて、こなし、馬尾篩にてうらひにすべし（木二本にてつき合する時に、鶏卵のしろみを入れ、味淋酒の煮切を加へ、鹽を加へ、かつを煮汁の冷したのを加へ、以上次第につき合せながら、だんくゝと加へるなり、さて次に裏ごしにかけてよし）漉して再び摺ばちに入れ、佛掌薯を皮をむき卸金にてすりおろしたるを、入れて合せ、つきよせ、鹽とかつをの煎汁少しを加へておくべし、其分量は左の如し、

○魚肉四十匁餘につき、玉子白味一つ、煮切のみりん五匁、鹽一匁、煎汁三匁を合せ、芋を合する時、薯二十五匁に、鹽一匁、煎汁三匁を加ふるなり

○海老は、あらひて、鹽湯にて湯煮するなり、(八合の水に、八匁位の鹽を加へ、攝氏八十五度位に沸きて、鍋底より、水玉の上に浮び上るほどに煮立ちたる所へ入れて、十分間余、強火にてたきて、色よく煮えたるを取り上げて、水をかけ、後うらより切りて肉を出し小口切にして、煎汁下汁をかけて置くべし、

○小椎茸は、乾したる物を水に浸して柔らかげ、湯鍋に入れ、十分間煮て、取り上げ、四つ切に銀杏葉形に切り、

○白くわぬは、皮をむいて湯煮をなし、取り上げて、小口切にして、右小椎茸と共に、下煮の汁(煎汁一合に、醬油二匁の割に合せたるもの)に入れて煮て、味をつけて置くべし、

○みつば芹は、洗ひ五分餘の長さに切り、柚子は、洗ひてへぎ切になし置く、

以上の品々用意出来しならば、先づ茶碗に海老、椎茸くわぬを入れ、汁をつぎ入れ、

○汁は、かつは煎汁六合餘を鍋に入れ煮立て、醬油三匁、鹽一匁をも加へてつくるなり

其上へ、前の魚の肉を盛りかけて、蓋をして、蒸籠に入れ、五分間むして(蒸籠の蓋をして、さて蓋をとり、茶碗の蓋も取て、みつばを散らし入れ、柚子を一片入れ、蓋をして又少しむし、取出してよし

竹の子田夫煮

○竹の子を、常の如く湯で、(二寸位のたけに輪切にして、幾枚を重ね、端より細く縦に切る)鹽水に一寸ひたし、取り上げ煮るべし。小鍋に、みりん酒、砂糖、(ザラメ)及び鹽と水少しとを合せて火にかけ、煮た、せたる中へ、せん切りにしたるを入れ時々うらがへしながら色のつやよくかはるほどを見て、煮えたりとして鍋をぬらし皿へ取り上げてよし

美^ミちやんの幼稚園觀

後藤ちとせ



美いちちゃんは今年とつて五歳になる愛らし盛りの娘ちゃんです。お年よりは少しませた其れは、お悩發なお兒で可愛い理屈をおつしやつては御兩親を笑はせ女中衆を困らせるとはお祖母様の御自慢話。此程久ぶりて御目にかゝると例の涼しい眼元、愛らしい口もとに笑みを堪へ「伯母ちやまよく御出で下さいました」と紅葉の様なお手をついて早速の御挨拶！フサ／＼した振分髪（ハナカマ）の右の髪に一寸結んだりホンの蝶も此撫子を特に慕ふて舞ひ寄つたかと思はれます、扱お正月よりは近きわたりの幼稚園に御通ひとの事でお自分のお室といふ奥の六疊で此日の日本床はつた美いちちゃんの幼稚園觀！お子供衆の御意見ながら感じ入つたる箇々の少なからぬに歸宅後取あへず筆執つて御報知申上ぐる事に致しました文責をお可愛らしい其お言葉を拙き筆に寫したる責は此とせにあらんこといお許しを願ひます。

美いちちゃんの好きな松井先生。

「伯母ちやま！美いちちゃんですか？美いちちゃんはお正月から幼稚園

園にあらりましたの、その始めの日は梅やに附いて行つて貰ひましたの」

梅やとは美いちちゃんのお氣に入りの附添女中、年は十七春は低い方が美しく肥つた丸ぼちやの桃割れ姿。眼のクル／＼した笑靨の深み。笑ひ顔の妙に愛らしい所が美いちちゃんの御氣に召した所以です今一寸九段中坂の佐藤まで幼稚園恩物の一つなる積木とやらを貰ひに出たとの事。

「だけれども」

と美いちちゃんはえら左様に力んだ調子で「だけれどお友達のお家へ遊びの間に歸らして置く兒が豪いのだと示はれまじさうい方で美いちちゃんが始めて参りました日からお母ちやまと同じ様に可愛がつて下駄つさいまつから直ぐモ」送^{（ハナカマ）}り迎へに致ちましたよ。

「送り迎へ」とは幼稚園の通用語で附添人をして單に幼兒等が願上の安全を計るため使はれ幼兒在園中は歸宅し居らしむる事を云ふと見えます後に「梅や」によく聞きますと此の幼稚園は本郷區湯島五丁目とやらむ御茶の水橋附近に建てられた新築の幼稚園で園長澤田鶴子女史の私立に係る近頃名高い良園だと云ふ事です。何れ其中好機會を得次第同園に參觀を願ひ女史が御意見も伺ひまして更に御報告申上ぐる事に致しませう、

扱て此送り迎への方法は成程々近き市街の幼稚園では附添人使用法として至極適切な方法と思はれます。何故かと申しますに幼稚園

兒在園中即ち子供衆が幼稚園に居らるゝ間は全く家庭の事を忘れ只管お友達のお友達及び先生と餘念なく遊ぶ様にし嬉しい時にも悲しい時にも面白い時にも走りたい時話したい時等どんな時にも先生をたより子供衆を力にして保姆及び幼児等の善なる感化を可成多く受けさせる事に致しませうには畢竟幼稚園保育の影響を最も多く與へやうと致しますには是非附添人を子供の傍に置いては可くしますまい何故ならばお子供衆と申しても人間社會の上下といふ事を既に既に承知して居られますから先生にお頼みするよりは全じ事でも附添人に言ひ附け、命令的にやらせる方が無難な所からヤレ水を飲みたいやれお手々が冷たい、鼻汁が出たお小用にと用ある毎に附添人の傍に走り折角先生が「御子供衆に自治の良習を養ふと思はれた結構な御意見も之のために妨げられお子供衆が器用不器用扱では種々なる性癖等も附添人の御世話やきのため被ひ隠されて先生の御目に移らぬ不利益もある事で何の道附添人を早く離してしまふ事が保育上害少なく利益の多い次第と考へられます而して之は唯お子供衆が危険を餘所にせる幼稚園内に居らるゝ時に限る事で蠱々たる電車、蠱々たる馬車の行き交ひ自轉車人力車荷車と可憐い幼児方の登園に途上の危険物の非常に多い所では是非附添人をして送り迎へせしめ其安全を計らなければなりません一昨々年か今暫しにて小学校に移るべき七才の少女兒が十五六才の丁稚に送られ幼稚園より歸宅の途上疾風の如く走り來れる電車の車輪に悲惨なる終りを告げし哀なる音づれか聞いた事がありました附添人が附いて居てさへ喧嘩煩忙なる都會に於ては斯る過失もある事故該澤田幼稚園に於て此方法をとら

れたのは至極適切な次第と思はれます、而し遠方より通ふ幼児の附添人の爲には特に質素なる一室を設け此等の人々をして裁縫編物等に在園中は靜謐にして扣へ置かしむる由ですが朝並ひに晝食後の保育室内の掃除及び保育材料の準備等には當番をきめて此等附添人を使用する習慣なさうです、又時々先生が受持の子供の附添人を呼び集めて左の如き心得を話し聞せ一年に二回位は事の序でに體格検査をも行つてやるとば誠に有難い事行届たお處置と感服、

附添人心得

一、附添人はく保育者の命令に従ひて進退し在園中は猥りに幼兒に干渉せざる事

一、附添人は保育者より命ぜられたる用事なき時は靜かに附添人扣室に控へ居るべきこと

二、園内規則を服膺して幼兒取扱上保育者の主義と衝突すべき行爲なかるべき事

一、園内の幼兒全体を一樣に親切丁寧に取扱ふべき事

一、附添人は幼稚園と家庭との連絡交情を計るに最も便宜の位置に立つものなるが故に自己の便利安樂等を思ふ利己心を棄却し只管附添ふ幼兒の保育上の好果を得ん事を慮り附添人たるの責任を全うすべき事

一、附添人相互の間は各々善意を以て交際し各々幼兒の便宜幸福を計り合ふ事につとめよ

斯る幼稚園の事ですから教育なき附添人にまさか斯んな六ヶ數文句を書取らせた譯ではありませぬ例の梅やが夜に入つてから話し

て呉れた事柄の大様を私が筆にまかせて書いて見た次第ですが當幼稚園の保姆方は誠に親切なお様子で附添室には備附の卓上に簡單なる下女讀本や家庭に關する新聞雜誌等々を乗せて置かれて毎週木土の兩日には一時間位つゞ彼等の質問も聞いてやられ又有益な世上の事實話卑近な修身談等々もなすつて下さるとの事扱々慈悲深い方々よと承る私までが感謝の涙ホロリ

是はとんでもない愚見陳述に陥りましてお主人公美いちやんの御話を忘れました美いちやんは入園翌日から送り迎へした事が御自慢なので人様におくれなるとる事がきらい！大のきらいと云はない計りの小さい勝氣の顔に嬉しさうな笑みを浮べ此度は其がお母ちやまと同じに可愛がるといふを聞くもゆかしき保姆の君の御禮さに移らるゝのです

「ア、先生の御名前ですか？松井先生おつしるの、それはくゝいゝ先生でつよ、伯母ちやまのところのちー姉ちやん位の御年、

ちー姉ちやんとは今年二十二歳になる私の妹分、オリブの袴召して、るの、かんかですか？、前髪少し廂にちて何時でも奇麗に束髪にてピカ／＼するお星様みたようなピン一ッ此處んところにつあしてゐる昨日元祿の奇麗な襦袢の袖きて居らちやいまちたよ

まあオリブで元祿と扱ては廂よと流行語はなほ小兒社會にも流れ込むかと驚きもし可笑くもある、——と美いちやんの觀察はただ中々細かなので

アノネ伯母ちやま！松井先生は赤顔色がお白くてそれでも頗の

ところはホーの桃色ですわ、奇麗な方！幼稚園では一番に奇麗な先生だつてきのふ中の組の京子ちやんがおつしやいましたよ、梅やがネ「何故松井先生はお嫁つあまに行かないでせう」つて云ひましたら内山さんのお附添が「松井先生の旦那様は、何、日露戦争でなくなつたのですよ」つて云ひましたよ、旦那ちやまつて指輪下さる方でせうね伯母ちやま？

思はず笑ひ出すこちらの顔を怪訝さうに打まもつてなぜ笑ふの？、それでもおうちのお母さまの金の指輪はお父様が洋行からお歸りの時下さつたのですよそしてお父様のところを梅ややなんかは旦那様つていひまつよ、

美いちやんの三段論法お伶俐さには何時もくゞ降参の外なしといふ譯で今更笑つたのがすまない様な氣がいたしました凡て子供衆が眞面目に考へた事を大人が思慮なしに笑ひ去る事は誠によろしくない非教育的の處置かと此時一寸思ひつきました

あゝそれで御座いますよ餘りお伶俐なものですから嬉しくつてと云ひまざらすと、無邪氣な美ちやんは疑念の雲を拂て

「おうちのお父様は凱旋して金鶏勳章戴いたのに松井先生旦那つあまはなぜおなくなりになつたかとわたくし時々考へて、先生どんなに悲しいかしらぬと思ひますよ、そしてこの指にはめて居なつある金の指輪をじーと見ては松井先生のお顔をのそくと先生は何んたか悲しいなそれでも嬉しい様なお顔して「どうなすつて？」と何時も美ちやんのお頭撫て下さいますつよ、伯母ちやま先生悲しいでせう、美ちやんも祖父ちやまのおなく「なりになつた時、お母様のお泣きになる膝のところまで何だか悲

しくつて泣きましたつけ、

今更思ひ出してモ一歸らぬなつかしいお祖父ちやまのお眞實の右手の壁に掲げられたるをじつと見つめる

「でも先生は何時もく／＼にく／＼して其れは／＼お優しいの美ちやん松井先生のお怒りになつたお顔を知りませんよ、朝にも早くいつつて、お遊びの時にても何時も一緒に遊んで下さるし、お飯の時に、玉ちやんや八重ちやんみたぬにおこぼしなつた方にも親切に世話をしおやりなつたから美ちやんは一番松井先生が好きです皆様も一番松井先生が好きで上の組の方も下の組の方も皆松井先生がすきです、あなたも、何時迄も何時迄も先生と遊びたいの小學校へ行つても高等女學校に行つても松井先生に教はりたいの、先生のまはりには何時も澤山の子供が集つて嬉しさに遊んで居まつよ、そして先生はあなた共が澤山に集つて先生の傍でさわいで居る時が一番嬉しさにして居られまつの、屹度子伯母ちやま私達か松井先生を好くだけ先生が私共を可愛がりなつたのだと美ちやん何時でも思ひまつよ誰だつて自分を可愛がつて下つた方がすきでせう、そして自分を好いて呉れる人は可愛らしい思ひまつからね、

斯程までに美ちやんに好かれる、美ちやんのみならず幼児等全体から好かれる松井先生とやまの人柄の尊さ懐かしさ抑も如何なる此の君の性格が最も多く幼児等を引き附けるのかと思ひますに實に此の「子供好き」「子供が可愛い」「子供に接するのが何より嬉しい様だ」と云ふ女子の本性、天帝の特に女子の精靈に降

き給ひたる貴き愛情の種子の遺憾なく繁り榮えたる此君の慈愛の心に基く事と私までが引き附けらるゝ心地して熱心に承りて居りますと美ちやんは更に先生の長所美點を數へ出して一時やむかとも見えぬのです

美ちやんね、故松井先生はあんなに子供がお好きだから思ふて何時も不思議になるのです。アノ角の建具屋のお婆さんなどは毎日泣ちやんや言藏さんを叱つて居るでせう美ちやんあのお婆さんは屹度子供が嫌いだらうと思ふのです、うちの梅やお母ちやまもお伯母ちやまだつて皆子供は好きでせう、ですから女の人の中にも子供の好きな人と嫌ひな人とあゝと思ふのです、美ちやんは等はこんなに皆様に可愛がられて居るのに吉藏さんや泣ちやんは毎日泣かない日はないの、氣の毒ですから建具屋のお婆さんも早く子供が好きになればよいと思ひます。お伯母ちやま、アノお婆様もやさしくしてあげられないでせうか美ちやんの家は神田駿ヶ臺鈴木町の北側に建てられたる日本風なる大家門内廣き花壇の中央芝園に達する砂磤道の兩側には横の並木ゆかしく春夏秋冬花絶えぬ其花壇には珍鳥愛禽の種類をも飼養しあるとの事、美ちやんの御室からは北庭の小櫓を超して茗溪の流れ女高師範順天堂其他の和洋様々なる大建物と緑樹の中に望むのです角と建具屋とは何處？吉藏さんや泣ちやんとは如何なる兒なるらむ又其の子嫌ひのお婆さんとは？

「それですね、お伯母ちやまも考へて見ますけれども美ちやんが一つ奮つて角のお婆さんとお友達になつてなほしてあげてはどうでせう」

「そんな事出来まちえんけれども、何時かあの婆ちやまとお友達になりたいと何時も／＼思ふのです、何故ならあのお婆さまは瀧ちやんやなんかを叱りまつけけれども美いちやんが幼稚園から歸つて来る時には何時もニコ／＼して「お郎の嬢ちやんで御座いますかなんて可愛いんだか」なんて梅やによくいきまつから美ちやんが御わびをしてあげたらアノ兒達も叱らなくなるかと思ひまつよ、ですけれども獨りで行くの始のうち、つこしままりがわるいから何時にしたら宜しいかと思つて居まつ、伯母ちやま何時か一緒に待つて下さるといへんだけど」

「えい、美いちやんの事なら何時でも待つてあげますよ。してれアノ松井先生の方ね伯母ちやま參觀にあがつて御目にかゝりたのですけれども誰にでもよく御話として下さいませうか」同情深き美いちやんは角の建具屋が氣になつてか頼りに氣の毒さうな面持をして小顔左に傾けて考へ込んで居られましたたが松井先生との一聲に忽ち嬉しげな様子に變り唐縮緬の赤座布團より一寸持手にすべらした兩の足を引込ませ小さい軀を一ゆすりして居すまゐ直すもモ一心は松井先生の腰の懷に抱かれたやう、

「エ、伯母ちやまがお出でになつたら先生どんなに喜ぶか知れまつえんよ、私明日先生にそう申しませう伯母ちやまが御出でになるつて、先生はモ一誰にでも親切でつゝ美いちやんの組下の組ネ下の組の兒ばかりを大事になさるのではありませんの、中の組の森田先生は時々お庭に御出にならぬ時もありませう其時中ノ組の兒が轉んだり喧嘩／＼つたりしますと松井先生が何時もよくして上げなさいます一昨日にも次郎さんと重ちやんと

駈けて來て衝突つかつて次郎さんは額のところに瘤を重ちやんはお鼻から血の出ました時にも松井先生が小使室につれて行つて町寧に世話して次郎ちやんには冷い手拭でよく冷して重ちやんにはお鼻洗つて黄色い藥つけた綿つめてあげましたの、森田先生はお病氣だから時々お休み なりますから中ノ組の方は淋／＼うにして元氣なくして居る時がありますよ私森田先生は善い先生なんだけれども軀がお弱いから外にも御出にならないで其代りに坂田先生がお出になるのだらうと思ひまつ、坂田先生はまだ小さいから氣がつかない事があるから中ノ組の方はよく惡戯をなすつたり喧嘩をなすつたり時々怪我などもなすつたりするのだと思ひますのよ、其れに誰だつて自分の組の先生がお出でになりませんと淋しい鬼ごつことだつて砂遊びしたつて先生が一緒にして／＼さならなくては面白くありませんから遂惡戯がしたくなりますわ、惡戯でないと思つてした事でも可くないつてよく叱れる事もありますからね矢張松井先生みた様にお丈夫な先生の組の兒は一番仕合せだと森田先生がお休な時には何時でもソ一思ひますの、そして本軀の丈夫な先生は何時も元氣よくしてニコ／＼して居て傍に行つても面白う御座いますけれどもお弱い先生は時々五月蠅さうになさいますから何だか親しくなれないで先生の居なさらない所で遊びたくなるだらうと思ふのですの、でも中ノ組の方はよく先生と遊びずにお山の蔭などに遊んで居なさるのですの、

松井先生はモ一何時も丈夫で居なさいまつからお室のお稽古の時にもニコ／＼して外のお遊びの時にも鬼事もして下さるし花



壇のお掃除もよい事も軍ごつこにも砂遊びにも何時も入つて下さるのです砂遊びの時には美しいやん何時でも先生のお裾の裾の砂拂つてあげますと「有難う」おつしやいますから美しいやんも何かして戴いた時には誰にでも女中にでも「有う」いふ事に致しましたの先生は何でも教へて下さる方ですから美しやん何でも先生の真似かしたいのですの、どう云ふ譯ですがお母様の真似でも梅やの真似でも看護婦のまねでも電車のまねでも真似をするのは極く面白くて何でも見るとすぐ真似たくなりますが其うちで先生の真似をしたり先生のなさる通りに色々な事するのが一番嬉しい様ですの、

熱心に聞いて居りますうち膝下に置いてあつた茶も早冷たくなつたのを果て何時にござつたらう午後の三時に出て來たのだがと思つて居りますと瓦斯をつけに出て來られたお母様「オヤまあ美しいやんはまだ幼稚園の御話ですか」

美しいやんは近頃すつかり松井先生崇拜でねてもさめても先生の御噂さばかり。あまり先生！先生！申しますから父兄會の折一寸伺ひましたら誠にマア優しい先生で曠が好くのも無理はないと思はれましたまだお若い様だがどうして中々有望なお方な様で御座いましたよ

母君もまた此先生に信用しきつて居るらしい、間もなく間の襖があいて女中が運ぶ食膳大したお馳走と思ひますと宜へ今日は二月四日節分とやらむね越しとやらむい惡い所へ來合せたと思ひましたが如才のない常家妻君の響應ぶりに美しいやんを御主人公なる

此六疊で結構なる御手料理に主客三人談笑の間に食を終へて歸宅したるは電車の往き來の賑はしき増す夕ぐれ方、玄關に送り出られた美しいやんの振分け髪の後姿！撫肩縮縮の羽織着流した上品なる母君の東裝姿が目止まつてなりませぬ、歸り途にも何となく思ひ浮ばるゝ松井氏とやらむ何れ其うちお目にかゝり其が巧みな御保育振りをお話しつたい申しませう

(未完)

▲動物園の趣味と子供眼 十歳位の男女の諸ふ動物の趣味の論は八九分通りは動物である、鳥、鹿、蝶、蟹、猿などがよく其無邪氣な見方で語られて居る、そして其語はるゝ動物はどこか子供の氣をひく物である、雀や、雁、つくづくぼしなど、形か鳴聲か又は其運動か、何か一つ特別な處があつて子供の物好き心をひくものである、子供の面白味なひくものは静かな物よりは動く物に限られてゐる、草木を畫たものは殆ど無いといふと、子供は自分分を土臺として自分に一番近い物に注意を向けて萬事自分に引附ける傾を持てゐる、こゝから子供の何でも人にして見たがる癖が起てくる、例へば鳥勘三郎といふやうなこと、植物に關した子供談は殆どない位である(日本園藝雜誌)

▲人の血液の重量 中肉中骨の普通人の血液は何程の重量である歟と云ふに對して獨逸醫學界一般には其人間の体重の十三分の一に當るもの學説が信ぜられて居たのだ、然るに近き頃伯林のホフマン博士が熱心に研究した結果右の學説を打破るべき新學説を生み出した、それは普通男子の血量五キログラムを有したるに對して五十歳の男子の血量百廿三ポンドの人は五千三百廿グラム、血を有し又廿一歳の男子の血量百廿八ポンドの人は五千五百五十六グラム、血量あるを確め得たので即ち獨逸醫學界の十三分の一説は誤りに歸し此血量の十一分の一の強説が一般に信ぜらるゝやうになつたと云ふ事である

雜 報

●**兒童研究講習會** 日本兒童研究會にては兒童に關する學術の普及を圖らんとて來る三月三日より十回完結の講習會を開設する由、左に掲ぐるは其規定なり、

學科及講師

(一) 心理學十時間 東京文科大學教授文學博士 元良勇次郎君
心理學の大要、殊に、身體と精神との關係に重きを置き、初學者にも、理解し易きより平易の事例を示して講述す。

(二) 教育病理學(十五時間)
教育病理學は、輒近、新に、興されたる學科にして、兒童の養育、及び、教化の上に、必須のものなれども、範圍廣きが故に、三名の講師、科を分て、分擔講述す。

(1) 教育病理學の要旨(二時間) ドクトル 富士川 游君
教育病理學、及び、教育治療學、教育衛生學の何物たるやを説明す。

(2) 學齡の病的兒童(八時間) 東京醫科大學 教授醫學博士 吳 秀三君
學齡兒童の精神異常を類別し、輒近の學問上、明かに、知られたる事實に基づき、其原因、及び、病狀等を、概括的に、且つ通俗的に、理解し易く、講述す。

(3) 知力不足の兒童(五時間) 東京醫科大學 三宅 鐵一君
知力の足らざる兒童(低能兒)の類別、その原因等を、一々説明するものにして、成るべく専門學の見地を離れ、何人にも、了解し易きを主とす。

(三) 兒童の身體(五時間) ドクトル 富士川 游君
兒童身體の發育の事を、解剖學、及び、生理學の方面より説明するものにして、極めて、通俗的に、講述す。

(四) 科外講演
時間の都合により、科外講演を開き、本會評議員中の専門家に依頼し、兒童心理、感化事業、低能兒に就て、講演を乞ふ豫定なり。

會 場

神田區小川町小川女子高等小學校(駿河臺下、東明館前)

期限及時間

第一期 三月三日(金) 十日(火) 自午後六時二十分至午後九時
第二期 三月廿七日(金) 廿八日(火) 自午後六時至午後九時
廿九日(火) 自午後六時至午後九時

會費及入會申込

會費は、左の通り前納せらるべし。

第一期(若くは第二期)のみ、聴講を申込まれし會員。

會費金六拾錢

第一期第二期共に、聴講を申込まれし會員。 會費金壹圓

入會希望の方は、便宜、左記の所へ申込まるべし。

東京市本郷區眞砂町拾五番地 日本兒童研究會事務所
東京市神田區和泉小學校内 宮 部 治 郎 吉

會員決定數に達したる時は入會謝絶する事あるべし。

●幼稚園と家庭とより入學したる

兒童の成績比較

長崎市磨屋町女
子尋常小學校長 都々木捨藏

親として我子を受するは人情の常にして決して怪むものなしと雖ども愛情眞理に適はず且其度を過せば却て我子に賦ふものなり世の親たる者慎まざるべからず抑親が子を受するの情は何人も敢て厚薄なしと雖ども其養育上兒童の多少と家庭貧富の狀態とに依て自ら異なるあり奈何となれば一家庭多數の兒童なれば兒童各別に及す所の親の愛情も自然淺く廣くならざるを得ず亦家庭の貧富は兒童に給する衣食住に大なる關係あるのみならず富者の家庭は兒童の養育保護に注意怠らざるも貧者の家庭に於ては是れが養育保護に充分の注意を拂ふこと能はざる狀況あり故に是等の關係上兒童が滿六才に達して初めて就學すれば智徳體の三育上著しく遅延あるを確信したり

惜て我國の幼稚園なるものは欧米の文明國と同一の主義方針を以て設備したるものなるも其實際は全然彼れと趣を異にしたるの觀あり奈何となれば歐米國の幼稚園は多くは下等勞働者の兒童を收容して彼等保護者が職務の爲め家庭教育を完全に爲し能はざる缺陷を補ふの方便とし、稍我國の貧兒寮若くは孤兒院の目的主意に能く似たり然るに我國の幼稚園は是れとは全く相反して多く富豪の兒童のみを入園せしめ殆も貴族的教育の爲めに施設したるもの

、如し彼は家庭に於て保護監督の及ばざる兒童の教育を托し我は家庭教育を爲し能ふべき兒童に多くは附添人を伴隨せしめて是れが教育を托す抑幼稚園なるもの、目的は同一なるも其現實に於て彼我矛盾なるは眞に怪訝に堪へざるなり

然らば則ち歐米の諸國にて上流者家庭の兒童は家庭若くは幼稚園等に於て特別に保育するの必要なきかと云へば決して然らず之を某留學生に聞く歐米の諸國にて中流以上家庭の保護者は兒綱教育に最も重きを置くが故に小學教育に充分の經驗ある優良なる教師を家庭に優遇して以て兒童教育を委ね而して其成績は彼の公立幼稚園の保姆及小學教師等が各一人にして多數の兒童を教育するより特別良好なりと云ふ故に彼等家庭の教師は學校教師と始終連絡を需むるも學校と保護者は敢て連絡を保つの必要なきもの、如しと尙又學校卒業後に於て家庭の教育を全ふすこと能はざる保護者ば更に兒童を學校教師に委託し而して之が監督保護の上に終日適宜の運動遊戲を獎勵しつゝありと云ふ彼等歐米人は兒童の教育に最も重きを置くは決して偶然にあらずして特に幼時の保育に着眼注意したる結果戰國國民の体格遠く彼に及ばざるは甚遺憾なりとす

然るに本校在籍兒童中幼稚園を経過し來りし者は總て中流以上の家庭の兒童なるとは申迄もなく其實際の調査も亦事實相違なきことを確めたり依て本校に於ては家庭より直に就學したる兒童と幼稚園を経過して就學したる兒童とは各別に學級を編制して是れが智徳體三育に就き多年間比較的優秀の調査を遂げしに幼稚園經過則ち家庭上流者兒童の智育は第一學年の前半期に於ては概して優等

にして癡癡より直に就學したる兒童とは逆も比較にならざるのみならず之を同一學級に編制なし能はざるの觀あり然るに家庭より直に就學したる兒童は智育の發達は至て鈍く第一學年の前半期末に到て初めて幼稚園經過の兒童と稍平衡するに至る而して幼稚園經過兒童の徳育は行儀作法並に言葉遣ひ等は善良なるも俗に出しやばる及び多辨の辯あり且つ幼兒として餘り人に慣れ過ぎて世話も又燒き過ぎるの方なり之に反して家庭より直に就學したる兒童の徳育は第一言葉遣ひが惡しきのみならず行儀作法の躰が粗惡なるは家庭教育の不注意を感ず獨り体育に到ては幼稚園經過の兒童は概して軟弱從て病弱に侵され易し是畢竟家庭の裕かなる處より世話も届けば愛情も亦過ぎて兒童の體育を顧慮せざる結果ならん然るに家庭より直に就學したる兒童は保護者が特別に體育を重するの精神にあらず故に衣食の供給上却て意の如くならざるにも係はらず家庭の事情上兒童其者の體力を要する場合も尠からず殊に保護者としては彼の上流社會の如く餘り兒童の運動遊戲に干渉せざるを以て自然の結果として骨格丈夫に筋肉肥滿せる者尠ならず是は是等校醫の身体検査に依て證明せられたる者なり今亦家庭生活の狀況に就て兒童の性格の著しき懸隔を列記すれば左の如し

幼稚園經過兒童の劣點

- 一、幼稚園經過の兒童中には我儘不規律にして朝寝の爲め遅刻す者尠ならず
- 一、幼稚園經過の兒童中には風雨寒暑若くは見物遊山等の爲め缺席する者多し
- 一、幼稚園經過の兒童中には自治心に乏しく世事に暗く下駄象

等の置場を忘れて教師を煩はす者あり

- 一、幼稚園經過の兒童中には常に依頼心を抱き帶の解けし時及便所等に用向きの場合にも教師に依頼する習慣あり
- 一、幼稚園經過の兒童は他の兒童と各五十四名の比較上胸圍も身長も共に七「センチメートル」短し
- 一、幼稚園經過の兒童は他の兒童と各五十四名の比較上体力劣等なり

幼稚園經過兒童の優點

- 一、幼稚園經過の兒童は遊戲に巧みにして比較的活潑なる動作を好む
 - 一、幼稚園經過の兒童は無邪氣にして言語は明瞭なり
 - 一、幼稚園經過の兒童は能く人に慣れて無遠慮の風あり
 - 一、幼稚園經過の兒童は同儕に富み高尚の風あり
 - 一、幼稚園經過の兒童は著しき優等者少きも劣等者又稀にして學力は概して相平均せり
 - 一、幼稚園經過の兒童は他の兒童と各五十四名の比較上胸圍と身長は何れも「七センチメートル」短きも体重は均一なり
- 家庭より直に就學したる兒童の劣點
- 一、家庭より直に就學したる兒童中には家庭に於て衛生上の不注意より遺傳性若くは傳染性の患者多し
 - 一、家庭より直に就學したる兒童中には他兒の非を擧ぐる等野卑の風ある者あり
 - 一、家庭より直に就學したる兒童中には言語不明瞭にして要領を得難き者あり

一、家庭より直に就學したる兒童中には専屈にして活潑なる動作を好まざる者あり

一、家庭より直に就學したる兒童は一の學力不同なり

一、家庭より直に就學したる兒童中には特別の優等生あるも劣等生も亦此中より生ず

家庭より直に就學したる兒童の優點

一、家庭より直に就學したる兒童中には溫良にして自治心に富める者あり

一、家庭より直に就學したる兒童中には伶俐にして世事に明かなる者あり

一、家庭より直に就學したる兒童中には規律正しく遅刻缺席等少し

一、家庭より直に就學したる兒童は概して自體壯健にして病氣に侵される者少し

一、家庭より直に就學したる兒童は質素にして我儘の風なし
一、家庭より直に就學したる兒童は能く艱難に堪へ堅忍不拔の氣象を持つるもの多し

前述の狀況に依て見れば幼稚園を経過したる兒童と家庭より直に就學したる兒童とは智徳跡の三育上各得失相伴ふたる成績にして優秀の判定に苦むなり然らば則ち幼稚園なるものは殆んど必要なきかの如く聞ゆれども決して然らず奈何となれば幼稚園を経過したる兒童と云ふは本校多年の調査上實際は上等生活者の兒童多大多數なるを以てなり故に家庭より直に就學したる兒童と云へば則ち中流以下の家庭の兒童なることは申迄もなきことにして畢竟本題

に於ける目下の研究は家庭實況の狀態に依て保護者の教育如何に關係すること多大なりと云ふに歸着するものなり

翻て想ふに二六時中一定の間父母に代て幼児の教育に従事するは現今社會の狀態上必要な要求にして幼稚園は即ち其要求に應ずるものと云はざるべからず果して然らば比較的家庭教育の完全なる上流社會よりも下層社會の幼児を保育するは寧ろ要求に適したるものにして本校の希望は則ち是にあり然り而して我國現下の狀態を顧れば思ひ半に過ぎるものあらん況んや幼稚園は其設備に於て未だ充分なりと云ふべからず是は是れ事情の止むべからざるものありと雖ども希くは各市町村小學校に悉く附屬幼稚園を設けざる迄も今少しく幼稚園の數を増して普く下流者の兒童收容に務めなは其効果の著大なるは期して俟つべきなり(日本小學校教師)

學事

○幼稚園に關する調査 文部省は全國幼稚園に關する事項を調査し去る一月廿八日之を官報に告示せり左の如し

第一 現任保母ニ關スル事項

(一) 現任保母ノ員數左ノ如シ

小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者	八十四人
尋常小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スルモノ	五十九人
准教員ノ免許狀ヲ有スル者	百五十八人
府縣知事ノ免許ヲ得タル者	三百五十九人
其他補助員タル者	三百七十五人
計	千三十五人

(二) 現任保母ノ中著シキモノ左ノ如シ

高等女學校卒業生ニシテ保母願タルモノ

三重縣等

高等小學校卒業生ニシテ保母タルモノ

滋賀縣等

女子高等師範學校保母練習科卒業生ニシテ保母タル者

香川縣等

同上本科卒業生ニシテ保母タルモノ

愛知縣等

高等女學校技藝專修科卒業生ニシテ保母タルモノ

鳥取縣等

神戸保母學校卒業生ニシテ保母タルモノ

鳥取縣等

小學校専科正教員ニシテ保母タルモノ

愛媛縣等

代用教員ニシテ保母兼務スルモノ

茨城縣等

(三) 保母ノ補助ニ付キテハ助手、雇、保母雇、雇保母、代用、保母代用、保母見習、等ノ名稱アリテ各府縣一定モズ

第二 保母ノ試験ニ關スル事項

(一) 試験ヲ行フ府縣數ハ十八ニシテ行ハザルモノ廿八ナリ

(二) 試験ノ標準ハ各府縣一定セズ

(三) 各府縣ノ報告中大體共通ノ學科目及其ノ程度左ノ如シ

修身 道德ノ要旨

教育 幼兒保育法ノ大要

國語 普通文ノ讀解作文習字

圖畫 簡短ナル自在畫

音樂 單音唱歌及樂器使用法

算術 整數、小數、分數ノ加減乘除及單比例

(四) 地理 歴史、理科、體操ヲ試験セザル府縣アリ

(五) 試験科目ニ付キテ特例トスベキモノ左ノ如シ

教育科ヲ置カズシテ保育ノ一科ヲ置キ幼兒保育ト方法ノシテ談話遊戲及手技ヲ試験ス

福井縣

教育科ヲ置カズシテ幼兒科ヲ設ケ幼兒保育法ヲ試験ス

富山縣

國語科ノ外ニ習字科ヲ特設ス

熊本縣

複音唱歌ヲ試験ス

愛媛縣

圖畫科ニ於テ自在畫ノ外ニ幾何畫ヲ試験ス

愛媛縣

(六) 熊本縣ハ幼稚園保母免許狀ノ有効期限ヲ七箇年ニ限レリ

第三 無試験ニテ保母タルヲ得シムル標準ニ關スル事項

(一) 試験ニヨラズシテ保母タルヲ得シムル標準モ一定セズ

(二) 右標準ノ中大體ニ於テ共通ノモノ左ノ如シ

他府縣ニ於テ小學校教員及保母ノ免許狀ヲ有スルモノ

高等女學校ノ卒業生

知事ニ於テ適任ト認メタルモノ

(三) 無試験檢定ノ中特例トスベキ事項左ノ如シ

女子高等師範學校卒業生

岡山縣等

年齡十五年以上ノ女子ニシテ高等小學校卒業程度以上ノ者

岡山縣等

官公立保母練習科ヲ卒業セルモノ

茨城縣等

女子高等師範學校卒業生及同校保母練習科卒業生

岡山縣等

師範學校保母養成ヲ目的トシタル教科ヲ卒ヘタルモノ

大阪府等

保母助手ノ免許狀ヲ有シ一箇年以上公立幼稚園ニ就職シタル經歷アルモノ

京都府等

(四) 京都府ハ他府縣ニ於テ得タル小學校専科教員ノ免許狀ヲ有スル者ヲ試験檢定ニ依リテ保母タルヲ認メザルガ如シ

大阪府等

(二) 保姆資格別及保姆檢定ニ關スル事項等

北宮福巖青山秋京大兵奈三愛滋枝福石富和島島岡廣山

歌

海

道城島手森縣田都阪庫瓦重知賀阜井山川山取根山島口

1	2	2	1	2	3	2	1	1	4	2	2	5	3	1	1	2	1			
1	2	1	4	1	1	1	3	1	1	0	2	1	2	1	2	1				
2	6	2	1	2	1	1	2	1	5	2	8	2	3	3	1	2	1			
2	2	1	1	4	1	1	8	8	2	0	8	4	1	1	4	6	3			
9	1	2	1	3	5	1	4	1	1	2	4	6	4	3	8	2	0	4	6	1
1	4	2	5	1	0	1	3	1	3	1	2	2	1	1	4	1	0	4	1	0
認定	試驗及無試驗	試驗及無試驗	認定	認定	認定	認定及試驗	認定	試驗及無試驗	取調中	無試驗	認定	認定	認定	試驗及無試驗	試驗及無試驗	認定	認定	認定	認定	認定
1	70	50	1	1	1	1	1	50	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
十錢乃至七十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	二十錢乃至五十錢	二十錢乃至五十錢	二十錢乃至五十錢	二十錢乃至五十錢	二十錢乃至五十錢	二十錢乃至五十錢	二十錢乃至五十錢	二十錢乃至五十錢	二十錢乃至五十錢	二十錢乃至五十錢	二十錢乃至五十錢	二十錢乃至五十錢	二十錢乃至五十錢	二十錢乃至五十錢	二十錢乃至五十錢

(二) 保姆檢定試驗學科目及其程度

四十八

兵 庫 同	福 井 同	富 山 同	岡 山 同	廣 島 同	愛 媛 同	大 分 同	熊 本 同	沖 繩 同
上	上	上	上	上	上	上	上	上
法 幼 兒 保 育 ノ 方	法 幼 兒 保 育 ノ 方	法 幼 兒 保 育 ノ 方	法 幼 兒 保 育 ノ 方	法 幼 兒 保 育 ノ 方	法 幼 兒 保 育 ノ 方	法 幼 兒 保 育 ノ 方	法 幼 兒 保 育 ノ 方	法 幼 兒 保 育 ノ 方
同	同	同	同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上	上	上
同 加 減 乘 除 比 例	同 加 減 乘 除 比 例	同 加 減 乘 除 比 例	同 加 減 乘 除 比 例	同 加 減 乘 除 比 例	同 加 減 乘 除 比 例	同 加 減 乘 除 比 例	同 加 減 乘 除 比 例	同 加 減 乘 除 比 例
日本歴史及地	日本歴史及地	日本歴史及地	日本歴史及地	日本歴史及地	日本歴史及地	日本歴史及地	日本歴史及地	日本歴史及地
理ノ大要	理ノ大要	理ノ大要	理ノ大要	理ノ大要	理ノ大要	理ノ大要	理ノ大要	理ノ大要
博物、物理化	博物、物理化	博物、物理化	博物、物理化	博物、物理化	博物、物理化	博物、物理化	博物、物理化	博物、物理化
學ノ初歩	學ノ初歩	學ノ初歩	學ノ初歩	學ノ初歩	學ノ初歩	學ノ初歩	學ノ初歩	學ノ初歩
同	同	同	同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上	上	上
同	同	同	同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上	上	上
同	同	同	同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上	上	上
同	同	同	同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上	上	上

(備考) 英城佐賀二縣ハ試験ヲ行フモ其科目詳ラカナラザルヲ以テ記載セズ
試験ニ依ラスシテ保姆タルコトヲ得シムル標準

府 縣

東 京

- 一、他府縣ニ於テハ小學本科正教員又ハ準教員ノ免許狀ヲ有スル者
 - 二、全上保姆ノ免許狀ヲ有スル者
 - 三、高等女學校卒業生
 - 四、其他知事ニ於テ適任ト認メラレタル者
- 一、他ノ府縣ニ於テ授與シタル小學校本科正教員又ハ準教員ノ免許狀ヲ有スル者

神 奈 川

埼玉尋常小學校本科教員ノ程度

群 馬

- 一、他府縣ニ於テ授與シタル小學校本科正教員又ハ保姆ノ免許狀ヲ有スルモノ
 - 二、高等女學校卒業セル者
 - 三、其他知事ニ於テ適任ト認メタル者
- 栃木他府縣ニ於テ保姆免許狀ヲ有スルモノ

靜岡小學校令 行規則第百十一條第百十二條ニ依リ小學校教員檢
定委員會ノ決定

長野(認)

福島(認定)

秋田(準教員檢定科目ニ依ル)

京都

- 一、 師範學校ノ保姆養成ヲ目的トスル教科ヲ終リタル者
- 二、 各府縣ニ於テ小學校教員免許狀(專科ヲ除ク)又ハ保
姆免許狀ヲ有スル者
- 三、 知事ガ特ニ適任ト認メタル者

大阪

- 一、 女子高等師範學校卒業生及同校保姆練習科ヲ卒業セ
ル者
- 二、 保姆助手免許狀ヲ有シ一箇年以上公立幼稚園ニ就職
シタル經歷アル者
- 三、 他府縣ニ於ケル保姆免許狀ヲ有スル者
- 四、 知事ガ適任ト認メタル者

三重

認定

年齡二十年以上

福井

- 一、 他府縣ノ保姆免許狀ヲ有スル者
- 二、 公立學校ニ於テ保姆ニ適ズル教育ヲ受ケタル者
- 三、 知事ニ於テ適任ト認メタル者

富山

認定

岡山

- 一、 女子高等師範學校卒業生
- 二、 官公立保姆練習科卒業生
- 三、 高等女學校卒業生
- 四、 他府縣ノ保姆免許狀ヲ有スル者
- 五、 知事ガ特ニ適任ト認メタル者

廣島

- 一、 他府縣ニ於テ小學校教員(專科ヲ除ク)ノ免許狀ヲ有
スル者
- 二、 同上幼稚園保姆ノ免許狀ヲ有スル者
- 三、 高等女學校ヲ卒業セル者
- 四、 知事ニ於テ特ニ適任ト認メタル者

愛媛

認定

高知

認定

長崎

- 一、 準教員ト同等ノ資格ヲ有スル者ト認メタル者
- 二、 他府縣ノ小學校教員免許狀幼稚園保姆免許狀ヲ有ス
ル者
- 三、 高等女學校ヲ卒業セル者
- 四、 知事ガ特ニ適任ト認メタル者

福岡

認定

大分

認定

佐賀

認定

熊本

認定

鹿兒島

認定

神戶

認定

沖繩

認定

英城

認定

千葉

認定

- 一、 他府縣ノ小學校本科正教員又ハ准教員ノ免許狀ヲ有
スル者
 - 二、 他府縣ノ幼稚園保姆免許狀ヲ有スル者
 - 三、 高等女學校ヲ卒業セル者
 - 四、 知事ニ於テ適任ト認メタル者
- 一、 他府縣ニ於テ授與シタル小學若クハ尋常小學校正教
員又ハ教員ノ免許狀ヲ有スル者
 - 二、 他ノ府縣ニ於テ授與シタル幼稚園保姆免許狀ヲ有ス
ル者
 - 三、 高等女學校ヲ卒業シタル者
 - 四、 其他知事ニ於テ適任ト認メタル者



鳥の話

なにがし

むかし、お日様の家來に鶏と鶯と孔雀と鳥
との四人がありました。
或日、お日様は四人の家來を呼んで皆に御用をお

い、つけになりました。

先づ、鶯にお仰しやるには、

「鳥お前はきれいな聲が出るから是から毎日一生懸命に唱歌のお稽古をなさい。そしてお客様のおつた時は上手に唱つてお聞かせ申すのだよ」とお仰つて、今度は鶏に向つて

「鳥お前は大きな聲だ。之から毎朝早く起きて大きな聲で鳴いて皆を起してお呉れ、それから忘れない様に毎日一つづつ卵を生むのだよ」とお仰しやいました。それから今度は孔雀に向つて

「鳥お前は身体が大きいから家のお掃除を頼むと

しよう、それから鼻！お前は目が大きくて能く何か見えるから門番を頼まう、能く番をして野ら犬や盗坊猫の来ない様に氣を付けなさい」とかいひ付けになりました。

是で皆夫れ、役目を申し付かつたので鶏は朝お日様が東の空にお上りなさうとすると大きな聲を出して「コケツコツコーお起きなさい。」と呼びつて皆んを起します。すると皆んなは大きくて起きて来て驚はホーケキヨ〜と唱歌の稽古に夢中になり、孔雀は禰がけてお掃除で大忙がし、鼻は大きな目を一層大きくして門番をして居ました。この様にして皆んなが仲よくそして勢よく働いて居ります中に一日たち二日たち三日たち四日たつと根が怠けもの、鼻はそろ〜と怠け始めて、そしてブツ〜と不平を云つて居りました。

鼻「ア、ア、僕ほど、詰らない事をして居る者はないなア、驚は毎日朝から晩迄面白い歌を唱つて居ればよいのだし孔雀はお掃除して終へば用はなし、鶏だつて朝一度大きな聲を出して後卵一つ産めば、それで用はなしと云ふのだから甘

いなア、僕などは朝から晩迄大きな目ばかり開いて年が年中氣を付けて居なければならぬ。アア、詰らないなア、」

とブツ〜云つて居ました、そしてだん〜に朝起きることも怠け勝たになり門番して居る中にも居眠りしてコツクリ〜船を漕ぎ出しました。そして遂々或日の事餘り倦きて来たので一寸門番小屋を抜け出して向ふの原へ土筆ん坊採りに鳥と一所に遊びに行つてしまいました。

何が偕て門番が居なくなつたのだから堪らない。猫は来る犬は来る、時々には狐や狸迄もノコ〜入つて来て幕所は勿論のこと、しまいににはブツ〜しくなつて遂々或日のことお日様が書に召し上かるお飯のお菜を向ふ山の狸が来て戸棚の中で食べてしまいました。是を御覽になつたお日様は大層お怒りになつて鼻をお呼びになつた鼻は居ない。お日様は益々怒りになる。其處へ鼻は何時になくニコ〜と悦んで歸つて来ました。スルトお日様は

鼻「コレ鼻！、お前は何處へ行つて居た？私の云

「ひ付けたこと忘れたか？」とお仰しやると鳥は不平面をして
 鳥「お日様、私は毎日／＼朝から晩迄門番ばかり
 して居ましたから遊びに行つたんです。」と一向
 平氣なものです。お日様はそこで
 鳥「よし／＼お前は以來私の家來にはしまい。お
 前は今日から免職しよう。何處へでも勝手な處
 へ行つてしまへー」とお仰しやいました。そして
 鶯や孔雀や鶏をお呼びになつて、お前達は能
 云ふことを聞いておつとめをしたから今日は皆
 んなにお褒美を遣らう、先づ鶯！お前は唱歌が
 大層上手になつたから是から始終歌を唱つて遊
 んで居て宜しい。そしてお友達に梅の花を遣ら
 うとお仰しやいました」それで鶯は今でも梅の
 花の咲く頃になると飛んで来て美しい聲でホーケ
 キヨと云ふて唱つて居るのです。それから鶏に
 は
 日「お前には是がよからうとお仰しやつてお日様
 のお奥様が冠ぶつて居らした冠を取つて鶏の
 頭に冠ぶせて下さいました。」

それで鶏は今でもきれいなトサカを冠つて居ます
 それから今度は孔雀に向つてお前は家中のお掃除
 で嘸骨折りであつたらう。それでお前の羽根が大
 層よごれたから、其代りにお前にはきれいな羽根
 を遣らうとお仰しやいました。それで今でも孔雀
 の羽根はあの様にきれいなのだそうです。併し怠
 けたせいでもありますが可哀そうにも鳥だけは何
 のお褒美も貰へず、おまけにお日様から勘當され
 たので今でもお日様の前には出られせんから、
 晝間は木の繁みや洞の中にかくれて居て夜になる
 と出て来ていたづらばかりして居ます。何とつま
 らないではありませんか。

機織り娘

硯山人

是もまた、怠けものゝ話、或處に大層な我まゝ娘
 がありました。姉さん達は朝から晩迄母様の御手
 傳ひやら機織りやらで夫れは／＼忙しい働き方で
 すが此我まゝ娘は手傳はふとも云ず、そうかと云

ふて一生懸命に遊んで居るのでもなく、唯ぶらりぶらりと姉さんの機織りを見物したり、母様のお臺所仕事を拜見したりして居ました。

母「お前！ちとお手傳ひおしなさい。」と云ふと「ハア」と氣のない返事をする丈で一向働う

ともしませんでしめ。

母様はあんまり此娘が怠けるので、しまいにはお怒りになつて或時のこと、大層お叱りなさいましたので流石の我まゝ娘も泣き出しました。其時丁度其處へ通り掛つたのは何處かのお爺さんです。聞けば娘の聲で、そして大層悲しさに泣いて居たので氣の毒に思つて門の中へ入つて来て見ると、今しも娘が叱られて居る最中です。憐み深いお爺さんは

爺「ヤレ／＼可哀さうに、小娘がいたづらでもしたと見えてお母さんに叱られて居るは、ドレ、一つあやまつて遣らうかな。」と一人言云ひながら入つて来て

爺「ア、もし／＼、おかみさん其お娘が何か悪いことなかつたか、マア勘忍して上げて下され、

私が代りにあやまりませうから、コレ、お嬢さん、あなた！何なかつたぢや、爺があやまつて上げる程に是れからもう／＼おいたなさるなよ」大層深切な、そして好いお爺さんでありました。

母様は此よいお爺さんに自分の娘の我まゝで怠けるのだと云ふことを知らせるのが如何にも恥づかしく思つたので、お爺さんの前を繕つて母「いゝえ、外のお爺様！此娘がいたづらをした

のではありませんの！此娘は能く云ふことを聞く娘で、そして機を織ることが好きで、間がな日が始終機ばかり織つて居るのです。それですから少しばかりな糸では逆も此娘の織る丈にも足らないので、いつも／＼糸を買つて／＼と申しますのですが、私の處は御覽の通り大したお金持でも御座いませんで、さう／＼、澤山の糸は買へません。それで今日から少し機織をお休みと申しましたので、夫れを悲しがつて泣いて居るのであります。」と答へました。之を聞いたお爺さんは、さも／＼、感心したと云

ふ風で

兼「ソレハ、感心な事ぢや、私はまた、そこの怠け娘と同じ様に、お母様の云ふことでも聞かないので叱かれて居なさるのかと思つたに、是はまた、何とした感心なことぢやらう、さう云ふことなら、何ぢや、私の處へお嬢さん、お出な。私の處では女子どもが少いので、糸がウンとたまつて居るよ。逆も今年の中に織りきれまいと思つて心配して居た處だつたのに、それでは丁度よいと云ふものだ。何うだね、お嬢さん、私の家へ来て思ひ様、機を織つて下さい。ね？ 夫れが宜い、さうしよう、サア、さうしよう、年寄は氣が短い、善いとなつたら早いがい、さあさうしよう、ねお嬢さん、嬉れしいだらう。私もさう感心な娘が大好き、怠けものは大々々々々の嫌いだ、サア行かう、支度など構ふものか、何でも早いが一番だ、ドレ出掛よう。お母さん、何うぞ此お嬢さん少し貸して下さいよ。ナニ私が大事にするよ。泣かせたりなんかするものかね。お菓子も上げるよ、ばんも上げるよ、

お好きなら西洋料理でも南京料理でも何でも上げるよ、ハイ左様なら大きにおぢやませ、と一人で承知して一人返事して嫌がる娘の手を引張つて、お母さんが「マア、おまち下さい」と云ふのも聞えればこそドン／＼向ふへ行つてしまひました。見て姉さん達は呆氣に取られてけるんとして居ますし、母様は出たらめを云つて、よせばよかつたと思ひましたがモ／＼追ひつきます。話變つて此方のお爺さんは、道々も大層な上機嫌兼、お嬢さんや、お前さんは何と云ふ好いお子ぢやさう云ふお子さんを持つた親御さんが羨ましいね。私はね、まだ子供がないのだよ、夫れだからね、お嬢さん、いやでなければ私の家におならないか？ ね、さうしてお呉れな、私の家のお婆さんはさつとお嬢さんを可愛がるよ！ ナ、何？ 機が織れない？ 母さんが出たらめを云つたんだつて？、イーヤイヤ／＼、さうではなからう、お前さんは何でも機が織れるに違ひない。何でも見た所から感心さうな娘だもの！ ナニ機が織れないとがあるものか、もし織れな

ければ習つて織る丈のことさ！一向平氣で自分一人で承知して一人ではめて居ました。さうかうする中に向ふにお爺さんの家が見える所に来ました。見れば大きい門構の中に田舎にしては立派な大きな家が建つて居て家裏には白塗りの土蔵が何んでも五つ六つ並んで居る様でした。頓がて門の處へ來ると、お爺さんは例の大聲で、其處等に居た下男共に向つて

「オイ權助や御苦勞だがの、お婆さんを呼んで來てお呉れよ、大變感心な娘を連れて來のだから」と云ふとハツと云つて下男が家に入る、入り違ひにお婆さんは曲がつた腰を伸して鼻の先の眼鏡をはづしながら出て來て

「おーオよいい娘だ、何うぞね、たんと織つて下さいよ、糸は幾等でもありますからね。なんとマア惻憐さうな娘だらう。此云ふ娘を持つた親御さんが羨ましいね、」と是もお爺さんそつくりな、一人承知の早合點、流石の我ま、娘も何と返事してよいやら譯が判らない。今更「同様の云つた事は嘘です。私は大の怠けものです」と云ふ

譯にも行かず、一人で困つて居りました。さうとは知らぬお婆さんは早推了の慰め顔でほくほく悦びながら

「淋しいかね、さうく姉さん達居なくて淋しいだらうね、けれどもちぎに淋しくなくなるからね、少し辛抱なさいよ。晩にはね、下男共を呼んでね面白い話をさせて上げるからね。そして明朝になったらね、早く起きて皆んなに負けないで働ませうね」と大層な御機嫌です。

かれこれして居る中に其晩は暮れて皆寢て仕舞ひ我ま、娘は親切なお婆さんと奥の御座敷に寢ることは寢ましたが、あしたのことが氣に掛かかゝつて寢られませんでした。其中うとくと寢たかと思ふと、誰れだか耳の傍で何か頻りに話して居るのが聞えます。何かと思つて眼を開いて見ます其處にはなつかしい姉さんが二人して立つて居ました、そして手招きで御出でくをして居ます。ソットお婆さんを驚かさないう様に起きて行つて姉さんの傍へ行つて「姉さん」と我知らず泣きながら二人の姉

さんにかぢり付くと姉さんもしつかり抱いて暫くは黙つて居ましたが、頓がて、大きい姉さんが姉糸ちゃん、お前は明朝からは意けて居てはいけませんよ、早くお家に歸つて母さんや姉さんに遇ひたければ明日から精々と働いて早く機を織つて仕舞はなければいけませんよと云はれて始めて眼の覺めた様に今迄自分の怠け居たのが悪かつたと氣が付いて、明朝からは一生懸命になつて機を織りませうと覺悟しました。そして夜の明けないうちに姉さん達に機の方を教つてしまひました。姉さん達も此様子を見て安心して何時の間に何處かへ行つてしまひ此娘もつゝいウトウトと機臺に寄り掛つて居眠りして居る所へ起きて來たのはお婆さんです。今しも娘が機臺に寄り掛つて寢て居るのを見て、さも安心したと云ふ様子でニコ／＼しながら

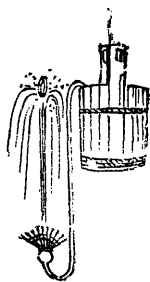
「マア、マア、こんな處に居たの、私はまた何處かへ行つてしまつたのかと思つたら、マア何と云ふ早起だらう、私などは逆も叶はない。感心々々實に感心しました。けれども嬢さんや、

明朝からはこんなに早起しないでもいいよ。明朝から私が起きたら起きなさい。夫れ迄は寢て入らつしやいよ」と相變らず親切なお婆さん、此方の居眠りして居たのは一寸も知らない様、流石の怠け娘も此處でも恥づかしい思いしながら驚いて目を覺して一生懸命機を織り出しました。が、根が伶俐な子ですから機も中々上手に織れます。お爺さんもお婆さんも一寸い／＼來ては頻りに感心して居ました。

此様にして一日たち二日たち、遂々一年ばかりたつ中に元の我まゝ娘の怠け娘は生れ變つた、はしつこい、怠け嫌いのよい人になりました。そして、あんなにたんとあつた糸を皆んな反物に織り上げて、お爺さんやお婆さんの「有り難い、感心だ／＼」とお禮とはめるの、一所でたにしてはよく悦んで來る人にも／＼も自慢話やら感心話やらして居る中に漸くのことや或日愈久しぶり自分のお家へ歸ることになりました。所がお爺さんもお婆さんも何うしても家に歸すがいやで仕方がありません。そして二人の云ふには

二人「何うぞお嬢さん私の子になつて下さい。其代
りお嬢さんの云ふ通り都合のよい様にするから
と云ふので
然夫れでは母様や姉さん達を皆な此家と呼んで
下さるなら私は此處の家の子になりませう」と
云ふので、二人の老人は大喜び早速皆んなを呼ん
で来て暮すことゝなり是から家中怠けるものにな
ります／＼お家が繁昌して行きましたとさ、

めでたし／＼／＼／



三月一日開始

毎午後二時半より六時まで
規則書は往復端書で申込め

保 姆 高等科 生 集 募

東京市牛込區納戸町六

私立東洋幼稚園内

高等科保姆養成所

師 講 と 科 學

●**兒童心理學** 女子教授 高島平三郎
教科書を逐條教授するが如き、平凡の講義ではなくて、實際を主として、
保育上必要なる兒童心理學のみなを或は表に、或は抜粹を印刷して、
平易に説明し、原理と應用とを完全に講義す。

●**應用教育學** 東京府女子師範學校教授 佐藤寅三
女子師範學校の教育科の程度と同様にして、親近の學理を、直に應用
し得らるる樣講義す。

●**保育法實際** 私立東洋幼稚園長 岸邊福雄
主なるものを分てば、幼兒性癖矯正の方法、恩物の取扱方、お伽噺を
仕方、遊戲法の作り方、殊に快活なる遊戲の仕方に就き、一々實際を
以て講演しつゝ、實地練習す。

●**小兒病手當法** 小兒科醫專門坂本善重
咳が澤山でる百日咳かも知れない。目やにが付いて居るトラホームか
も知れないと、父兄に通知してやる事の出来る様に、又怪我をしたる
時の手當は、綿帶を巻き直す、事などを實地に練習す。

●**音** 唱歌の數は澤山に教へ、樂器は人員に相當する數を備へて練習させ、
各種のマーチもかなりに彈ける様に教へる。
樂校女子美術學校講師 稻岡美賀雄

●**鼓** 最も新案の學科です。笛、シンパー、小大鼓を合せゐるのです。幼兒は
眞に喜んで躍ります。一人が皆練習するので、樂器は安價ですが、
貸與もします。
近衛師團 樂隊副團長 松波興二郎

●**國語** 明治の家庭主筆 村上武三郎
新刊の書物或は新聞雜誌の如きな、修身として文學として、或は實用
として講義します。

●**子供滋養品造り方** 成女學校津川千代子
和洋支那の子供菓子の造り方、或は幼兒の滋養品の用の方試食等をさ
せます。

●**黑板** 白墨一本で簡單にして趣味多き、實用圖を教授します。全く畫に初心
の人でも、面白く奮起する様に講習す。
著者 松田茂

●**保育法實地練習** 講習開始の當初より、數人宛一
週間交代にて、東洋幼稚園に於
て、岸邊園長指導の下に、實地練習せしむ。恰も師範學校の教生の如
く勤務するのです。



女子高等師範學校內レール會發行

婦人子ども

▲▲幼稚園志願者募集▼▼ 保姆

當所ニ於テ來三月一日ヨリ保姆志願者三十名ノ入學ヲ許ス望ミノ者ハ本月末日迄ニ履歷書並ニ入學金五十錢ヲ添ヘテ願出ヅベシ

但修業期限ハ本科豫科各六ヶ月トシ高等女學校卒業生、尋常小學校准教員ノ資格ヲ有スルモノ及之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノハ直ニ本科ニ入學セシムベシ

●規則入用ノ向ハ二錢郵券ヲ送ラルベシ
●卒業生は無試験にて免許狀を受領するの特典を有す

明治四十一年一月

東京府神田橋外

東京府教育會

(電話本局七八八)

同表神保町一番地

一ツ橋幼稚園内

東京府教育會 附 保姆傳習所

(電話本局一三四九)

